

Hokkaido University News

北大時報

令和元年

6

No. 783 June 2019

春の叙勲に本学から4氏
名誉教授称号授与式の挙行
馬渡駿介名誉教授が「第29回南方熊楠賞」を受賞

お知らせ

・「北海道大学 緑のピアガーデン2019」「北海道大学 緑のジンギスカン Wine&Beer2019」を開催





馬渡名誉教授が「第29回南方熊楠賞」を受賞



ロシアモスクワオフィスを開設

■ 全学ニュース

- 1 春の叙勲に本学から4氏
- 6 名誉教授称号授与式の挙行
- 6 馬渡駿介名誉教授が「第29回南方熊楠賞」を受賞
- 7 ロシアモスクワオフィスを開設
- 7 国立大学法人等情報化連絡協議会を開催
- 8 北大フロンティア基金
- 10 令和元年度新渡戸カレッジ入校式を挙行
- 11 南アフリカのプレトリアで「日本留学フェア」を開催
- 12 タイ首相府予算局一行が本学で研修会を開催
- 13 春のガレージセールを開催
- 13 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- 14 J Aグループ北海道との第3回連携協議会を開催
- 14 札幌キャンパスで第16回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
- 15 高等教育研修センターにて研修会を開催

■ 部局ニュース

- 16 農学研究院・農学院・農学部・国際食資源学院でセミナー「北海道のワインと農業の未来について」を開催
- 17 タマサート大学法学部訪問団が法学研究科・法学部を来訪
- 18 公共政策大学院が駐日欧州連合全権大使パトリシア・フロア閣下の講演会を開催
- 19 情報科学研究院と国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）が公開講座「人工知能とビッグデータ」を開催
- 20 函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
- 20 植物園の夏期開園及び無料開園の実施

- 21 ウルトラマンゼロが北大病院小児科病棟の子どもたちと交流
- 22 看護週間－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施
- 22 北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

■ お知らせ

- 23 「北海道大学 緑のピアガーデン2019」「北海道大学 緑のジンギスカン Wine&Beer2019」を開催

■ 諸会議の開催状況 23

■ 学内規程 24

■ 表敬訪問 24

■ 人事 25

- 25 新任教授紹介

■ 訃報

- 26 名誉教授 岸 力 氏
- 26 名誉教授 金成 誠一 氏

■ 資料

- 27 在籍学生数（令和元年5月1日現在）
- 29 令和元年度外国人留学生数（令和元年5月1日現在）
- 30 令和元年度国別外国人留学生数（令和元年5月1日現在）
- 31 平成30年度卒業・修了者の就職等状況一覧



私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式



春のガレージセールを開催



キャンパスクリーンデーを実施



ウルトラマンゼロが北大病院小児科病棟の子供たちと交流

■全学ニュース

春の叙勲に本学から4氏

この度、本学関係者の次の4氏が、令和元年春の叙勲を受けることについて、5月21日（火）に発表となりました。

| 勲章 | 経歴 | 氏名 |
|-------|-----------------|-------|
| 瑞宝中綬章 | 北海道大学名誉教授 | 栃内 香次 |
| 瑞宝中綬章 | 北海道大学名誉教授 | 伊藤 献一 |
| 瑞宝双光章 | 元 北海道大学病院診療支援部長 | 仲 知保 |
| 瑞宝単光章 | 元 北海道大学病院看護師長 | 高岡 勇子 |

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

(総務企画部広報課)



とちない こうじ
栃内 香次 氏

感想

このたび、図らずも本年春の叙勲の栄に浴し、誠に光栄に存じます。これもひとえに北海道大学入学以来長年にわたる諸先生のご指導、先輩、同僚、研究室のさまざまな人たちのご支援、ご協力の賜物であり、感謝の念に堪えません。

私は、この間ほぼ一貫してコンピュータと情報工学分野の教育、研究に従事して参りました。顧みますと、これは昭和35年夏、60年安保闘争がようやく終息し、大学内も落ち着いて来た7月、電気関係学会の全国大会が本学工学部を中心に開催されたことが一つのきっかけと言えると思います。このとき、電気工学科在学中の我々は講演会場の雑務手伝いに動員されましたが、私が割り当てられたのはたまたまコンピュータ関係の講演会場で、それがコンピュータとの最初の出会いでした。

このことが頭に残っていたためか、翌年4年生になって卒論課題を選択するにあたり、コンピュータ関係のテーマを希望し、それが今日に至った次第です。当初はコンピュータそのもののハード、ソフトの研究が中心でしたが、時を経て次第に情報と人間の関わり合いに興味が移り、情報メディア学、ことに言語情報処理分野の研究が中心となっていきました。

また、我が国の各大学にコンピュータが設置され始めたのも丁度この頃で、本学では私が卒業した昭和37年の春のことでした。そのような経緯で、同年4月に修士課程に進学後、専門分野の学習、研究と並行して計算センター運営のお手伝いすることとなり、大学院を修了して教員に採

用された以後もずっと続いて、それが私の大学人としての生き方に影響を及ぼすこととなりました。このことは、一面では情報処理の応用研究に傾斜することにつながり、情報の基礎学を深く考究するという面が不足する結果となってしまったことは否めませんが、その一方で、情報コミュニケーションに関わるさまざまな事象に広く関心を持つようになっていったとも言え、自分では功罪半ばすることになったのかと考えております。

大学を退職してすでに10年弱が過ぎ、先端の研究から遠ざかって久しくなりますが、情報学諸分野への愛着は続いており、これからもできる限り永く関心を持っていきたいと考えております。

終わりにあたり、お世話になりました数多くの皆様に改めて御礼申し上げますとともに、充実した学究生活を送らせていただいた北海道大学の一層の発展をお祈り致します。

功績等

栃内香次氏は、昭和39年3月北海道大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程を修了し、北海道大学工学部講師、助教授を経て同62年4月に教授に昇任し、平成14年3月に同大学を退職されました。同14年4月から北海学園大学大学院経営学研究科教授、次いで同大学経営学部経営情報学科教授に就任、同16年4月からは同大学大学院経営学研究科長を務められました。同22年3月に同大学を定年退職するまで両大学で46年間にわたり一貫して情報科学の教育・研究に尽力され、所属学部、学科における教育・研究と並んで、学内情報基盤施設にも関わり、その発展にも貢献されました。

北海道大学大型計算機センターにおいては、設立当初から携わり、センター設置後約10年間、同センター研究開発

部助教授を併任し、研究開発部長を務め、ユーザーサービスのための各種ソフトウェアシステムの開発を主宰するなど、センター運営の確立に多大に貢献されました。平成6年4月からは同センター長を務められ、図書館電算化、研究業績データベースの構築等、本学情報基盤の確立に貢献されました。

研究面では、ハードウェア設計、プログラミング言語処理系の設計、計算機システムの性能評価等、計算機工学の様々な分野の研究を行い、特に自然言語処理、音声言語処理の研究に顕著な業績を挙げられました。昭和50年代半ばからは、創生期にあった日本語情報処理の研究を開始し、学習により特定分野に適應する能力を有する「かな漢字変換手法」を提案し、現在でもなおトップクラスといえる変換精度を達成しています。その後、学習型手法を中核とする自然言語処理を研究の中心に据え、機械翻訳、対話処理、質問応答システム、音声対話処理など、現在の信号処理工学分野の研究方向を定める研究を展開し、その業績は高く評価されています。また、人間とコンピュータとの効率的なコミュニケーションを実現する観点から、音声認識、音声の韻律情報処理など、音声信号処理に関しても多くの研究業績を挙げ、自然言語処理と音声情報処理の融合という、現在言語情報処理学の研究において大きな流れの一つとなっている研究方向の先駆者として活躍されました。

学外においては、電子情報通信学会北海道支部長、他多数の学会等の委員等を務められ、学術研究の推進発展に尽力されました。

以上のように、学術研究の発展、学内の運営並びに情報メディア工学、自然言語処理工学の応用分野の発展に尽くされており、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和14年7月8日
- 昭和39年4月 北海道大学工学部講師
- 昭和40年4月 北海道大学工学部助教授
- 昭和45年6月 } 北海道大学大型計算機センター助教授 (併任)
- 昭和51年3月 }
- 昭和62年4月 北海道大学工学部教授
- 平成5年10月 } 北海道大学工学部電子工学科長
- 平成6年3月 }
- 平成6年4月 } 北海道大学大型計算機センター長
- 平成10年3月 }
- 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科教授
- 平成12年4月 } 北海道大学工学部情報工学科長
- 平成13年3月 }
- 平成14年3月 北海道大学退職
- 平成14年4月 北海道名誉教授
- 平成14年4月 北海学園大学大学院経営学研究科教授
- 平成15年4月 北海学園大学経営学部経営情報学科教授
- 平成16年4月 } 北海学園大学大学院経営学研究科長
- 平成19年3月 }
- 平成22年3月 北海学園大学定年退職

(工学院・工学研究院・工学部)



いとう けんいち
伊藤 獻一 氏

感 想

この度は、叙勲の栄を賜り誠に光栄に存じます。ご高配を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

北大工学部機械工学科で教育・研究への道を勧めて頂いた斎藤 武先生、駆け出しの頃からご指導賜った深澤正一先生、有江幹男先生には深淵なる感謝を申し上げます。さらに、共に学んだ同期の仲間、北大在任中に支えて下さった教職員の方々、燃焼工学及び宇宙環境応用工学研究室の学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。研究室では常に意欲的な学生たちに恵まれました。私の主な研究成果は、当時学生であった藤田 修教授（機械宇宙工学部門）に負うところが大きく、共に歩んできた仲間として感謝に堪えません。

1970年代、社会的課題となった内燃機関の排ガス低減技術開発関連の研究で、東大生産技研の平尾 収先生、早稲田大学の斉藤 孟先生ほか当代第一線の研究者の諸先生にご指導頂きました。また、学内にあっては、先任助教授の谷口博先生、村山 正先生とは同門の先輩として終始お世話になっておりました。代替燃料としてアルコール燃料の可能性を国際的に模索し実用化が叫ばれた時代で、国を代表する立場で欧米の多くの関係者と議論を重ねる機会にも恵まれ、充実した日々を過ごさせて頂きました。

一方、1990年代から燃焼学基礎研究の一環として微小重力利用研究に関わる機会を得、宇宙ステーション利用を目指す新しい研究グループに参画し、燃焼学を通して宇宙開発と関ることになりました。工学部では、機械工学分野に宇宙の専門分野を取りこむ組織改変では、自らも体質改善を図ることになりました。新進気鋭のメンバーに参画して頂き、これにより北海道での宇宙開発の芽を育む研究環境が整えられました。宇宙関連では元宇宙科学研究所所長の秋葉鎌二郎先生に現在でもご指導頂いております。

北大での締めくくりは、燃焼学で最も権威のある国際燃焼シンポジウムの札幌開催でした。誘致は数年がかりで、日本開催は30年ぶりの2回目となる大会で、数日間にわたり千名規模の参加者がおりました。これもつい先ごろのように思えます。

私は北海道最初の屯田兵の末裔であり、母方の祖父も含め、祖先は北海道の礎とならんとする覚悟と意欲もってこの地に赴きました。所詮、浅学非才な私も些かなりとも地域の発展と日本の宇宙政策のお役に立つことがあれば、この度の受章に甘んじることなく微力を尽くしたいと願っております。幸い昨今、北海道で民間主導の新しい形の宇宙開発の胎動が伝えられ、楽しい日々であります。人に恵まれ、助けられてきたことを幸せに思います。

功績等

伊藤献一氏は、昭和42年3月に北海道大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程を単位取得退学後、同年4月に北海道大学工学部講師に採用され、同43年4月に助教に昇任されました。同44年3月に同専攻博士課程を修了し、工学博士の学位を取得された後、同57年11月北海道大学工学部教授に昇任し、平成9年4月に北海道大学大学院工学研究科教授に配置換えとなられ、平成15年3月に定年により退官するまで、燃烧工学及び宇宙環境応用工学の分野の発展に尽くされました。

学部においては、燃烧工学、応用燃烧工学、宇宙環境利用工学、機械工学学生実験、機械工学大意第一、熱物理解工学Ⅱ、宇宙工学、物理工学コロキウムなど、また大学院工学研究科においては、燃烧工学特論、宇宙環境工学特論、宇宙環境工学特別演習、機械工学特論ゼミナール、宇宙環境工学特別研究第一、同第二などの講義、演習を担当するとともに、学部学生並びに大学院学生の研究指導にあたり、多くの技術者や研究者の育成に貢献されました。

研究面では、主に燃烧工学及び宇宙環境応用工学の分野において顕著な業績を挙げられ、特に代替燃料燃烧排気ガスの研究及び微小重力場における燃烧現象の研究に取り組み、数多くの業績を挙げられています。

アルコール燃烧排気ガスに関する研究では、メタノール及びエタノールを内燃機関へ適用した際の排気ガスの基本的特性を明らかにするとともに、これらの燃料が低NO_x性に優れているものの、当時規制の行われていなかったホルムアルデヒドがエンジン排気系の中・低温反応によって多量に生成されることを初めて指摘されました。

微小重力場における火災安全性の研究に関しては、将来の有人宇宙活動を見据えて、種々の固体材料の微小重力場における燃烧特性の研究を行いました。特に、固体材料の着火、火炎伝播、消火、排気ガス回収に関する一連の挙動を世界に先駆けて微小重力場で観察し、国際的にもその成果は高く評価されています。

学外においては、日本機械学会理事、日本燃烧学会会長、同理事、日本マイクログラビティ応用学会理事、自動車技術会理事、北海道マイクログラビティ研究会会長、他多数の学会等の委員等を務められました。

以上のように、学生の教育、特に燃烧工学、宇宙環境応用工学の分野の発展に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著であります。

略歴

生年月日 昭和14年10月14日
 昭和42年4月 北海道大学工学部講師
 昭和43年4月 北海道大学工学部助教
 昭和57年11月 北海道大学工学部教授
 昭和59年5月 } 北海道大学工学部附属直接発電実験施設研究員
 昭和60年3月 }
 平成5年10月 } 北海道大学工学部機械工学科長
 平成6年3月 }
 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科教授

平成15年3月 北海道大学定年退職

平成15年4月 北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)

つづき ともやす
仲 知保 氏

感想

この度、令和元年度春の叙勲の栄に浴し、身に余る光栄と思っております。私がこのような機会に恵まれたのはひとえに諸先輩、同僚など多くの皆様方のご指導、ご支援の賜物と感謝し、心から厚くお礼申し上げます。

私は、昭和51年に北海道大学医学部附属診療放射線技師学校を卒業後、その年の10月に新設された旭川医科大学医学部附属病院放射線部に就職いたしました。真新しい施設と最新のX線装置に囲まれ、卒業したばかりの私にはとても恵まれた環境であり、日々の技術習得に追われ勤務していたことが思い出されます。

その後、昭和54年4月から北海道大学医学部附属病院放射線部に勤務、X線診断部門に所属しX線撮影、X線透視検査、CT検査、MRI検査等の業務に携わってきました。

昭和50年代は、X線検査は現在のデジタル画像とは異なり、フィルムと増感紙を組み合わせてX線フィルムに感光し、現像処理により出来上がっていました。そのため増感紙とフィルムの最適な組み合わせを探ることが重要であり、放射線部内の画像処理委員会の一員として諸先輩方の指導のもとX線画像の物理評価について多くの実験をする機会を得たことは私の学会活動のきっかけとなり、当時ご指導いただいた諸先輩には感謝申し上げます。

パソコンが2～3年毎にモデルチェンジするIT技術の著しい進化の時代が訪れ、X線画像もアナログ（フィルム）画像からデジタル画像へ移行し、平成元年には故入江五郎放射線部長の指示のもと、世界初のPACS（Picture Archiving and Communication Systems）が稼動し、画像のデジタル保存、伝送、モニタ画像による画像診断が開始される時代の大きな変革期に参画できたことは私の技師人生にとって大きな出来事となっています。私は主にデジタル画像の画像処理、表示系に多く携わり、その後のブラウン管（CRT）モニタから液晶モニタへ移行する際に、表示画像の客観的評価を行う上で、当時の経験が大変役に立ちました。

平成7年、病院再開発計画のもと病院総合医療情報システムの一部であるオーダーリングシステムが導入され、放射線検査に対する手書き指示箋を完全電子化したオーダーリングシステムの構築に全国的にも早い段階で成功しました。

平成16年、法人化に併せて診療支援部が設立され、平成

23年4月には鈴木春樹前部長の退職に伴い診療支援部長に就任しました。診療支援部は当時すでに11職種、200名を超える医療技術職員が所属し、院内各部門の専門職種の業務を行い、病院機能の欠かせない重要な部門を担っていました。高度化した専門医療技術への対応と共に、収益性、効率化、医療安全等の対策から、非正規職員の採用が多くなり、任期切れの職員の取り扱い、正規職員への移行等業務と適正な人員配置、各部門の正規職員枠の調整、自己評価、人事評価等多くの事が求められ、これらの対応に追われた日々でした。

振り返りますと、北大キャンパスの自然の中で四季折々の景色と共に過ごすことができ、無事に定年を迎えることができましたのは、病院各位のご協力とご支援の賜物と心より感謝しております。

最後に北海道大学、北海道大学病院の更なる発展をご祈念申し上げます。

功績等

仲 知保氏は、昭和28年4月11日に北海道札幌市に生まれ、昭和51年3月に北海道大学医学部附属診療放射線技師学校を卒業、同年4月に天使病院、同年10月新設の旭川医科大学医学部附属病院放射線部を経て、同54年4月から北海道大学医学部附属病院放射線部に勤務し、平成21年4月に診療放射線技師長兼副診療支援部長、同23年4月に診療支援部長を歴任、同26年3月に定年退職されました。

同氏は診療放射線業務に従事するとともに大学病院の使命である学生教育、臨床実習に携わり、また院外では放射線技術学分野において多くの学会発表を行い、放射線技術学の発展に寄与してきました。

同氏は放射線部診断部門に所属し、X線撮影、造影検査、CT検査、MRI検査等を担当され、また病院情報システムや画像の電子保管等の構築に携わり、システムや機器の管理にあたりました。

昭和50年代には、X線撮影によるX線被曝低減の議論が高まる中、多数開発された高感度のX線フィルムと高感度の増感紙を用いて検証し、数多くの実験を行い、低線量で良質な画像を提供できるそれらの組み合わせを物理的な画像評価法を用いて学会発表等を通じて多くの診療施設へ情報発信するなど、放射線被曝の低減の観点から患者及び公衆社会に対して大きく貢献されました。

平成7年、病院総合医療情報システムの一部であるオーダーリングシステムが導入された中で、放射線検査に対する手書き指示箋を完全電子化したシステムを構築されました。その際、主力メンバーとして放射線部より選出され、構築作業にあたり、引き続き保守・管理を担当されました。

その後も、病院情報システムの更新に際し、時代に即したシステム構築を提案し、運用面の検討・調整等を積極的に図り、システム構築に貢献されました。

平成23年、診療支援部長に就任、所属する11職種の医療技術職員の業務と人員配置を精査し、適正な人員配置、補

充に関する状況を病院執行部へ提案できる体制を整備し、病院組織の機能維持に貢献されました。

院外活動では、日本放射線技術学会北海道部会の会員として多くの研究発表を行い、平成17年に学術賞を授与されました。また平成21年から2年間、同学会北海道部会の副部会長を務め、会の運営にも寄与されました。

以上のように、同氏は診療放射線技師として放射線検査技術学の研究、学会発表を通じ医療技術の改善へ貢献し、さらに病院情報システムの構築、運営、管理に尽力されたものであり、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

| | |
|----------|--------------------------------|
| 生年月日 | 昭和28年4月11日 |
| 昭和51年4月 | 天使病院 |
| 昭和51年10月 | 旭川医科大学医学部附属病院放射線部 |
| 昭和54年4月 | 北海道大学医学部附属病院放射線部診療放射線技師 |
| 平成7年4月 | 北海道大学医学部附属病院放射線部主任診療放射線技師 |
| 平成15年10月 | 北海道大学医学部・歯学部附属病院診療支援部主任診療放射線技師 |
| 平成16年4月 | 北海道大学病院診療支援部副診療放射線技師長 |
| 平成21年4月 | 北海道大学病院診療支援部診療放射線技師長兼副診療支援部長 |
| 平成23年4月 | 北海道大学病院診療支援部長 |
| 平成26年3月 | 北海道大学定年退職 |
| 平成26年4月 | 北海道大学嘱託職員 |
| 平成31年3月 | |

(北海道大学病院)



たかおか ゆうこ
高岡 勇子 氏

感 想

この度、凶らずも叙勲の栄誉を賜り身に余る光栄と感激いたしております。これもひとえに関係の皆様のご尽力の賜物と深く感謝し、お礼を申し上げます。

私は昭和53年国立札幌病院附属看護学校を卒業し国立札幌病院に入職、その後2施設を経て昭和62年より北海道大学病院で30年勤務させていただきました。

最初に配属となった第三内科病棟では、骨髄移植が開始になり、1か月以上に及ぶ無菌室生活を余儀なくされる患者さんへの看護とその体制づくりに関わりました。無菌室内に搬入する医療・看護用具、生活用品の全てを滅菌消毒し、提供された骨髄の生着を患者さん、ご家族と祈るような思いで1日1日と待ったことが思い出されます。また、終末期の患者さんが多い部署の中で、自分の未熟さゆえ終末期の患者さんの気持ちに触れることに怖さを感じていましたが、ある患者さんを通じ変わることができた部署でもありました。患者さんが抱いている願いや希望を無理だと思わず信じる事、その中で出来ることは何か考え、実践することが看護だと整理でき、今に続く看護師としての自

分の礎になりました。

その後、副看護婦長、看護師長と立場が変わりながら、循環器内科病棟での4年間を挟み、平成29年の退職まで通算17年半をICU・救急部で勤務しました。循環器内科病棟では看護師長として、心臓リハビリテーションチームへの看護師の参画、心臓移植適応患者の意思決定支援への取り組みを進め、医療チームの中で看護師が役割発揮することの意義、難しさをメンバーと確認し合いながら推進させることができたように思います。

ICU・救急部では、平成15年よりICU増床、3次救急医療開始、救急後方病棟運用が段階的に行われ、当時の高田美恵看護婦長とともに組織体制作り、人材育成を担ってきました。また、北海道で唯一の実施施設となった肝臓移植、心臓移植に対応すべくマニュアル作成や倫理教育等を含めた看護師教育に取り組んできました。部署内委員会や看護研究等を通して取り組み評価を行い、部署の看護の質向上に常に意識を向けた看護チーム作りに努めてきました。時に患者さん、ご家族から頂く感謝のお手紙や後日談で、救命や回復支援に関われた意味や喜びを共有させていただくこともありました。

北海道大学病院での30年間を振り返りますと、よき先輩・同僚・後輩に恵まれ、他職種を含む多くの方々にご指導・ご支援をいただいたこと、また患者さんが身をもって教えてくださったことに、感謝の気持ちで一杯です。今後は、この荣誉に恥じることないよう過ごしてまいりたいと思います。最後になりますが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展を祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

功績等

高岡勇子氏は、昭和31年9月28日に北海道小樽市に生まれ、同53年3月に国立札幌病院附属看護学校を卒業、他病院での勤務を経て、同62年2月に北海道大学医学部附属病院に採用され、平成9年に副看護婦長、同13年に看護婦長を歴任、同29年3月に北海道大学病院を定年にて退職されました。

同氏は採用後、第三内科病棟で勤務され、ICU・無菌室配属時に副看護婦長に昇任されました。この間、平成11年に重症集中ケア認定看護師に認定されました。

その後、看護婦長に昇任され、ICU・救急部では、超急性期の部署においても患者参加型看護を実践し看護記録に残すことに尽力し、日本看護協会出版会「家族看護」6号へ「ICUにおける患者・家族への看護計画開示のための取り組みと看護記録」を投稿されました。またこの間、平成13年8月に通信制オーストラリア公立グリフィス大学保健学科を卒業し、看護学士を取得、同17年には日本看護協会認定看護管理者ファーストレベル研修を、同20年セカンドレベル研修を受講し、看護管理者としての資質向上に努められました。

循環器内科病棟では、重症心不全看護や心臓移植の意思決定支援、専門性を発揮する看護師の育成に努め、研究活

動では平成24年日本集中治療医学会において「体外式補助人工心臓を装着した患者のシャワー浴方法の検討」を発表されました。

再度異動したICU・救急部ナースセンターでは、院内救急体制の整備や終末期ケアの質向上に向けた看護師教育に取り組み、その成果を日本集中治療医学会で、平成25年の「院内救急体制における救急部看護師の活動と初期アセスメントの現状」から同27年まで毎年発表されたほか、日総研「心不全看護早見ガイド」を執筆、監修されました。

また、病院全体の活動では、北海道大学病院災害マニュアルの作成、第1回災害訓練の企画・運営から10年にわたる活動を続け、本院の災害対策の基礎作りに貢献されました。また、院内人工呼吸器安全パトロールの企画・実施に携わり安全な呼吸器管理にも貢献されました。

同氏は社会活動も精力的に行い、日本看護協会の代議員や、日本集中治療医学会看護部会の役員を歴任、また、天使大学、北海道大学医学部保健学科、札幌市消防学校の非常勤講師も務められました。

以上のように同氏は、30年の永きに亘り看護管理、看護の質向上、教育の充実に尽力され、その功績は誠に顕著であります。

略歴

| | |
|----------|--------------------------|
| 生年月日 | 昭和31年9月28日 |
| 昭和53年4月 | 国立札幌病院 |
| 昭和58年4月 | 大阪府立千里救命救急センター |
| 昭和60年6月 | 国家公務員等共済組合連合会幌南病院 |
| 昭和62年2月 | 北海道大学医学部附属病院看護部 |
| 平成9年4月 | 北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長 |
| 平成13年4月 | 北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長 |
| 平成15年10月 | 北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護婦長 |
| 平成16年4月 | 北海道大学病院看護部看護婦長 |
| 平成29年3月 | 北海道大学定年退職 |
| 平成29年6月 | 社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院看護副部長 |
| 平成31年3月 | |

(北海道大学病院)

名誉教授称号授与式の挙行



名誉教授称号授与式出席者一同

先に本学名誉教授に決定された方々(36名)に対する称号授与式を6月4日(火)に学術交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された22名の名誉教授一人ひとりに、笠原正典総長職務代理が称

号を授与した後、永年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにおいて、この度称号を授与された名誉

教授と道内在住の名誉教授、役員、副学長、部局長との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が工学研究院を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、役員、副学長、部局長を合わせて56名が出席され、瀬戸口剛工学研究院長の開式の辞に始まり、笠原総長職務代理の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあった後、関靖直理事・事務局長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、瀬戸口工学研究院長の閉式の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

(総務企画部人事課厚生労務室、工学院・工学研究院・工学部)

馬渡駿介名誉教授が「第29回南方熊楠賞」を受賞

馬渡駿介名誉教授(元総合博物館館長)が、「第29回南方熊楠賞」を受賞されました。

南方熊楠賞は、和歌山が生んだ知の巨人、南方熊楠の偉業をたたえて制定された賞で、馬渡名誉教授の国内外での分類学発展への貢献が高く評価され、このたびの受賞となったものです。

馬渡名誉教授は本学理学部を卒業後、約半世紀にわたって無脊椎(むせきつい)動物の分類学に関する研究に取り組んできました。特に「コケムシ」の分類では、世界中の標本との比較研究で成果を上げ、これまでも日本動物学会賞や日本動物分類学会賞などを受賞しています。

馬渡名誉教授は受賞のコメントで「巨人の名を冠した賞を、足下にも及ばない私がいただくことの責任の重さを痛感しています。熊楠翁は主に粘菌、私は無脊椎動物と研究対象は異なりますが、巨人と同じ分類学に親しんだことは私の誇りです」と喜びを語りました。

5月11日(土)に行われた授賞式では、和歌山県田辺市の紀南文化会館において、馬渡名誉教授が「ヒトの目にとまらない生き物たち」のテーマで記念講演を行いました。

(総合博物館)



授賞式での馬渡名誉教授(右)



スピーチをする馬渡名誉教授(中央)

ロシアモスクワオフィスを開設

本学は、令和元年5月31日（金）、ロシア連邦モスクワ国立大学内に「北海道大学ロシアモスクワオフィス」を開設しました。

開設当日、笠原正典総長職務代理がモスクワ国立大学のヴィクトル・アントノヴィッチ・サドーフニチ学長を表敬訪問し、オフィスの開設により、両大学の教育研究交流の推進のみならず、日露間の人的交流や大学間交流が加速されることに対する期待を双方で確認しました。その後、オフィス開設に係る合意覚書に両者が署名しました。

本学は、平成29年度に文部科学省の「大学の世界展開力強化事業プラットフォーム構築プログラム（ロシア）」に、平成30年度には文部科学省の「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS地域）」に採択されています。一方、モスクワ国立大学は、ロシア連

邦で最高峰の大学であり、日露大学協会におけるロシア側の幹事校となっています。

このことから本オフィスは、本学とモスクワ国立大学の共同事務所として両大学間の交流推進の拠点になるだけでなく、日本留学促進及び日露大学協会の活動拠点にもなります。

今後、オフィスに配置する留学コーディネーターが優秀なロシア人留学生の我が国への受入れを増加させる活動



オフィス開設に係る合意覚書に署名した笠原総長職務代理（右）とサドーフニチ学長（左）

を展開していくほか、今年9月には、本学とモスクワ国立大学が協働して第2回日露大学協会総会、日露学生フォーラムをモスクワ国立大学で開催する予定となっています。このオフィスを通じ、高等教育分野における日露間の交流が一層推進されていくことが期待されます。

（国際部国際連携課）



オフィスに看板を掲げる笠原総長職務代理（右）とモスクワ国立大学のユーリー・マゼイ副学長（左）

国立大学法人等情報化連絡協議会を開催

5月27日（月）、学术交流会館第1会議室において、令和元年度第1回国立大学法人等情報化連絡協議会を開催しました。

同協議会は、全国の国立大学法人、大学共同利用機関法人及び独立行政法人の連携・協力により、各機関が事務の情報化を推進するために設けられているもので、全国を8地区に分け、各地区の持ち回りで、全国協議会を開催しています。今年度は北海道地区が当

番となり5月と2月の年2回、札幌で行うこととなっています。

今回の協議会では、同協議会が主催している情報化に関する発表会及び研修にかかる今年度の企画内容について協議されました。

次に、オブザーバーとして出席した文部科学省大臣官房政策課サイバーセキュリティ・情報化推進室竹田和彦室長から、令和元年度の国立大学等に関する情報セキュリティ施策について説

明がありました。

続いて、構成校から各大学の事務情報化の状況について報告が行われ、その後の質疑応答では互いの状況についての情報共有・意見交換が活発に行われるなど、大変有意義な会議となりました。

（総務企画部情報企画課）



説明する文部科学省 竹田室長（右）



協議会の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

| | |
|---|--------------------------|
| 北大フロンティア基金情報 基金累計額 （5月31日現在） | / 24,336件 4,874,440,070円 |
|---|--------------------------|

5月のご寄附状況

法人等13社、個人197名の方々から18,362,103円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アウレオ、株式会社アミノアップ、株式会社千代田テクノル、独立行政法人国立病院機構函館病院、医療法人はまなす、北大医学部泌尿器科同門会、北大電子一期有志一同、北海道大学関西同窓会、北海道大学交響楽団

寄附者ご芳名（個人）

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 合川 正幸 | 朝倉 茂夫 | 朝倉 幸子 | 新井 三郎 | 新井 三郎 | 安齋 豪格 | 石川 恵美 | 石黒 照康 |
| 磯部 宏 | 井沼淳一郎 | 今多 将 | 入澤 秀次 | 岩崎 一郎 | 岩渕 和也 | 岩本 理恵 | 岩森 秀樹 |
| 隠田 知則 | 縁記 和也 | 大塚 稔 | 大野ゆき美 | 大場美貴子 | 大畑 揮義 | 大原 正範 | 大室 広行 |
| 沖上 昌史 | 奥田 英信 | 小田原一史 | 小内 透 | 加賀 幸彦 | 加藤 千明 | 加藤 典彦 | 金川 眞行 |
| 亀倉 更人 | 河本 充司 | 木村 太一 | 木村 幸文 | 桐生 芳郎 | 楠美 清彦 | 國枝 保幸 | 窪田 開拓 |
| 熊澤 哲夫 | 栗原 義夫 | 小菅 高之 | 壽 啓一朗 | 小山 裕 | 近藤 英司 | 斉藤 久 | 榊 雄二 |
| 坂倉 雅夫 | 坂下 雅和 | 坂本 大介 | 櫻田 誠司 | 佐藤 明子 | 佐藤 照明 | 佐野 雅志 | 三升畑元基 |
| 志済 聡子 | 渋谷 進 | 渋谷真希子 | 渋谷 昌彦 | 杉井 敬 | 杉江 和男 | 杉田 眞一 | 杉之下正樹 |
| 鈴木 貴之 | 鈴木 正司 | 関根 猛 | 瀬田波栄潤 | 千田 公男 | 宗 代次 | 高木 康里 | 詫間 滋 |
| 竹内 義治 | 竹田 正直 | 竹田 正信 | 田所厚一郎 | 田中 敬基 | 田中 敏 | 田中 宏招 | 田中 美佳 |
| 田宮 直彦 | 津田真寿美 | 土家 琢磨 | 土屋 裕 | 都築 道夫 | 寺澤 睦 | 戸城 博行 | 戸田 純子 |
| 富田 裕 | 豊田 健一 | 豊田 威信 | 中川 智章 | 長島 士郎 | 長島美恵子 | 中館 尚也 | 中塚 英俊 |
| 中村 俊彦 | 中村 則子 | 中村 秀樹 | 夏井坂光輝 | 納谷 昌直 | 西田 実弘 | 新田 幸絵 | 野口 和哉 |
| 野間 啓 | 萩原 寛司 | 林 幸一 | 樋口 徹也 | 福永 悟郎 | 藤井 栄吉 | 古田 康 | 逸見 英雄 |
| 北條 敬之 | 前田 博 | 牧田 善二 | 松原 謙一 | 三上 博光 | 三喜田順彦 | 御子神弘久 | 三島 俊彦 |
| 皆川 一志 | 宮崎 厚子 | 宮田 信幸 | 宮田 睦彦 | 村上 昌樹 | 村上 靖 | 村上 幸夫 | 森 健史 |
| 森賀 祐司 | 安陵 成浩 | 柳谷 正武 | 山岸 善吾 | 山田 英司 | 山田 克芳 | 横井 成尚 | 横田喜一郎 |
| 横山 考 | 吉岡 成人 | 吉田 一人 | 吉田 広志 | 吉田 裕子 | 吉成 浩志 | 吉本 太郎 | 蔵 建夫 |

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)**(法 人)**

株式会社アウレオ, 株式会社アミノアップ, 北大医学部泌尿器科同門会, 北海道大学交響楽団

(個 人)

磯部 宏, 岩崎 一郎, 岩渕 和也, 岩森 秀樹, 木村 幸文, 國枝 保幸, 窪田 開拓, 栗原 義夫, 近藤 英司,
坂下 雅和, 渋谷真希子, 宗 代次, 詫間 滋, 竹田 クニ, 竹田 正巳, 田中 敏, 津田真寿美, 中館 尚也,
中村 俊彦, 中村 秀樹, 夏井坂光輝, 新田 幸絵, 野口 和哉, 逸見 英雄, 北條 敬之, 宮崎 厚子, 山田 克芳,
吉田 一人, 藤 建夫

感謝状の贈呈

栄研化学株式会社 様 (令和元年5月16日)



小林 清一 様 (令和元年5月23日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

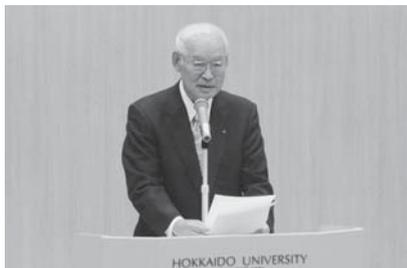
北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

令和元年度新渡戸カレッジ入校式を挙

5月11日(土)、新渡戸カレッジの入校式を高等教育推進機構にて行いました。今年度は、学部学生対象の「新渡戸カレッジ」及び大学院学生対象の「新渡戸スクール」の統合後、初の入校式となり、学部生及び大学院生が6年一貫となった特別教育プログラムにおける学びをスタートしました。

はじめに、基礎プログラム学部教育コース入校式を、大講堂にて行いました。新入校生(1年生267名、2年生69名)が第7期カレッジ生として仲間入りし、在校生333名とともに新しい新渡戸カレッジがスタートしました。入校式には、長谷川晃新渡戸カレッジ校長代理(理事・副学長)、石山 喬副校長(北海道大学校友会エルム会長)をはじめ、様々な分野で活躍されているフェロー及びメンター25名が駆けつけました。



石山副校長の祝辞

続いて、基礎プログラム大学院教育コースの入校式を、N1講義室にて行いました。今年度は、厳正な選考の結果、17学院等に所属する100名の入校希望者から77名が基礎プログラム第5期生として本プログラムへの入校を果たしました。

入校式には、長谷川校長代理、石山副校長をはじめ、理事、学院長等が出席するとともに、授業担当教員及び修了生2名が出席しました。

はじめに、長谷川校長代理から、「新入校生の新渡戸カレッジにおける学びが有意義なものとなること」、さらに「新渡戸カレッジにおける経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与

最初に、長谷川校長代理から挨拶があり、新渡戸カレッジ誕生の背景や特色、新渡戸稲造の功績、本学の同窓生等からなるフェロー及びメンターの協力によるユニークな授業や行事及び今年度から新渡戸カレッジと新渡戸スクールの統合により、新たに新渡戸カレッジとしてスタートしたことについての説明がありました。

次に、石山副校長から挨拶があり、引き続き、フェロー及びメンターを紹介後、フェローを代表して森 順子フェローに祝辞をいただきました。

その後、大学役員、学部長の紹介があり、修了生による祝辞として第2期生である農学院1年の栗原利奈さんから挨拶があり、続いて、在校生の祝辞として工学部3年の真船創太さんから、新入生を代表して総合系1年の丹由美子さんから挨拶がありました。



森フェローによる祝辞

する指導的・中核的な人材となることを願う」との挨拶をいただきました。

その後、学院長等の紹介があり、続いて、修了生代表挨拶として、基礎プログラム修了生の南宮 頌さん、続いて上級プログラム修了生の脇田大輝さんがプログラムにおける経験や成果について、英語でプレゼンテーションを



脇田さんによる修了生代表挨拶

最後に、基礎プログラムにおいて様々なプログラムに積極的に取り組み、活躍したカレッジ生5名に、石山副校長より「新渡戸カレッジ奨励賞」が授与されました。

約1時間で終了した入校式は、たくさんの方々のお祝いや熱いメッセージにあふれ、入校を祝福する温かな雰囲気のもと、新たな新渡戸カレッジ生にとって、決意と自覚を深める時間となりました。



長谷川校長代理による挨拶



丹さんによる入校生代表挨拶

行いました。

最後に、入校生代表として保健科学院1年のディナーラ ヘルメスさんが挨拶し、新渡戸カレッジ入校生に対するメッセージ及び今後のプログラム履修における抱負を述べました。

(学務部教育推進課)



ディナーラさんによる入校生代表挨拶

南アフリカのプレトリアで「日本留学フェア」を開催

本学アフリカサカオオフィスでは、5月22日（水）、南アフリカ共和国の行政首都プレトリア市内で「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは、サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施されたものです。

アフリカのなかでも優れた教育研究機関を多く有する南アフリカでは、親日派も多く、2010年には「日・南ア交流100周年」を機に両国の益々の学術交流促進を目的として、本学と大学間交流協定を締結しているプレトリア大学に日本研究センターが設立されています。本フェアは、日本の大学と南アフリカの大学の学術交流の促進を目的として5月23日（木）・24日（金）に開催された「第4回日本・南アフリカ大学フォーラム（SAJUフォーラム）」のサイドイベントとして実施されました。

在南アフリカ日本国大使館とSAJUフォーラム事務局の協力のもと実施された本フェアには、本学、朝日大学、京都大学、熊本県立大学、国際大学、

筑波大学、東京外国語大学、東京海洋大学、同志社大学、山梨学院大学、横浜国立大学、立命館アジア太平洋大学の12校が日本から参加しました。本学からは、アフリカサカオオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授、池中良徳獣医学研究院准教授、アフリカサカオオフィス留学コーディネーターの成澤徳子特任助教と大門 碧特任助教、国際連携機構の植村妙菜国際URA、国際部の安高由香利特定専門職員が参加しました。

まず、奥村アフリカサカオオフィス所長が開会挨拶を述べた後、来賓の川口周一郎公使参事官から祝辞をいただきました。次に、アフリカサカオオフィスから日本留学、在南アフリカ日本国大使館から国費奨学金及び外国青年招致事業JETプログラムの概要を説明しました。続いて、帰国留学生により日本留学経験談が披露され、その後、本学を含む日本の各大学から、それぞれの研究教育の特色と留学プログラムが紹介されました。最後に、日本の参加大学・機関によるブースでの個別説明が行われ、本学のブースにも多くの熱心な参加者が訪れました。その

他22大学・機関*の案内資料が、別途配布されました。

本フェアの開催にあたって、新聞広告のほか、在南アフリカ日本国大使館及びプレトリア大学日本研究センターのSNSやメーリングリストを活用させていただいた結果、市内の高校生や大学生、その保護者を中心に、予想人数の2倍を上回る約330名が来場し、日本留学の効果的な広報の機会を持つことができました。本学では引き続き、サブサハラ・アフリカ地域からより多くの留学生を日本に誘致する活動を実施していきます。

*資料のみ参加の大学等機関：朝日学園明生情報ビジネス専門学校、あしなが育英会、大阪大学、岡山大学、お茶の水女子大学、九州大学、九州工業大学、上智大学、信州大学、東京大学、東京工業大学、東京国際大学、東北大学、富山大学、長崎大学、名古屋大学、名古屋外国語大学、日本学生支援機構、弘前大学、広島大学、山形大学、横浜市立大学、早稲田大学（計23大学・機関、50音順）

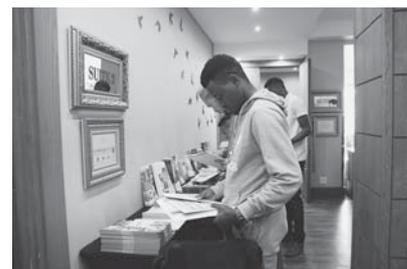
（国際部国際連携課）



説明を熱心に聞く参加者



本学のブース



資料参加大学のパンフレットを手取る来場者

タイ首相府予算局一行が本学で研修会を開催



参加者との記念撮影

5月23日（木）に、フード&メディカルイノベーション国際拠点において、タイ首相府予算局エグゼクティブ・プログラム（Budgeting for Executive Program）の一環として、研修会が開催されました。本研修会は、タイ予算局が、中央政府、地方自治体、大学、国家企業、民間団体の管理職教育のために開催しているもので、今年度は、北海道で視察研修が行われました。

研修会には、予算局副局長のYaowalux Champeeratana氏を団長とし、カセサート大学、チェンマイ大学副学長をはじめ大学関係者、政府関係者、民間団体役員の総勢95名が参加しました。

研修にあたって、はじめに、笠原正典総長職務代理から歓迎挨拶と本学紹介がなされ、続いて小林泰男農学研究院教授より、本学とタイの大学との交流状況についての紹介があり、その後、農学研究院副研究院長の野口 伸教授が、本学における研究成果の社会実装と財源について講演しました。最後に、予算局一行を代表して、国立研究評議会のSirirung Songsivilai事務総長が研修会の開催について謝辞を述べました。

参加者は、熱心に聞き入り、時折メモを取るなど、終始和やかな雰囲気で行われ、本研修会は成功のうちに終了

しました。今回の研修会をきっかけに、本学とタイとの交流のさらなる進展が期待されます。

（国際部国際連携課）



笠原総長職務代理による歓迎挨拶



農学研究院 小林教授による講演



農学研究院 野口副研究院長による講演



謝辞を述べる国立研究評議会のSirirung事務総長

春のガレージセールを開催

4月24日（水）、学生交流ステーションロビー及び学生活動室において、春のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の妻と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に

対して日常生活に必要な物資を提供しているものです。

当日は天気も良く、来場者は開場とともに小型家電製品、食器や調理器具など日用品、衣料や寝具などのコーナーに詰めかけていました。来場者数は約200名となり、多くの留学生が手

に大きな荷物を抱え、盛況のうちに終了しました。

毎年4月と10月の開催前には学内に向けて物品提供依頼をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

（学務部学生支援課）



日用品を購入する留学生



天候に恵まれた会場



子供服を選ぶ留学生

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム 留学生採用証書授与式を挙行

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生に採用され4月に入学した留学生に対し、同特待プログラム留学生採用証書授与式を、5月23日（木）に高等教育推進機構長室で行いました。

授与式では長谷川晃理事・副学長から留学生一人ひとりに採用証書が授与されました。

証書が手渡された後、長谷川理事・副学長から祝辞が述べられ、留学生は真剣なまなざしで聞いていました。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。本学の教育研究に深い関心を持つ大学院の研

究科及び学院並びに博士課程教育リーディングプログラムに入学する私費外国人留学生を対象としており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受け入れを行っています。

現在は、今回の4月入学者の6名を含め、39名の特待プログラム留学生が在籍しています。

（学務部学生支援課）



全員での記念撮影



長谷川理事・副学長から採用証書授与

JAグループ北海道との第3回連携協議会を開催

本学とJAグループ北海道は平成29年10月、食と農を中心とした幅広い分野の発展に寄与することを目的として包括連携協定を締結し、以降、毎年連携協議会を開催しており、本年は5月24日（金）にJA北農ビルにおいて、第3回連携協議会を開催しました。

連携協議会では、西井準治理事・副学長から開会挨拶があった後、ホクレン経営企画部の南 章也企画課長から第1・2分科会、JA北海道中央会の高橋直樹協同活動推進室長から第3・4・5分科会の活動経過報告がありました。

続いて、本連携協定の活動成果について紹介したテレビ番組「あぐり王国北海道NEXT」（平成31年3月30日・4月13日放送：JAグループ北海道提供）のダイジェスト版による放映報告がありました。

その後、野口 伸農学研究院教授から今年度の活動計画と連携体制について提案があり、これまで以上に分野横

断的な人材育成・研究交流を推進していくことが承認されました。

最後に、JA北海道中央会の柴田倫宏常務理事から閉会挨拶が行われ、連携により商品開発に至る成果があったこと、令和の時代も北海道地域に根差した連携を推進していくことを改めて確認しました。

連携協議会終了後は、大学力強化推進本部の古畑真美URAの進行による研究報告会が開催され、今後の連携に繋がることを期待される両機関の研究シーズを紹介しました。

はじめに、「ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点の現状について」と題して、松本謙一郎工学研究院教授による特別報告があった後、JAグループ北海道から2事例、本学から4事例の研究紹介がありました。質疑応答では、JA側から現場のニーズを踏まえた多くの質問が挙がり、北海道大学の研究シーズへの期待が伺えました。

（研究推進部産学連携課）



西井理事・副学長による開会挨拶



連携協議会の様子



JA北海道中央会 柴田常務理事による閉会挨拶



工学研究院 松本教授によるロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点紹介



研究報告会の質疑応答の様子

札幌キャンパスで第16回「キャンパス・クリーン・デー」を実施

全学一斉の構内清掃作業として、札幌キャンパスでは5月15日（水）に第16回「キャンパス・クリーン・デー」を実施しました。

当日、事務局参加者は百年記念会館の前に集合し、清掃作業を開始しました。学内からは今年も多くの学生・教職員等が参加し、約4,000名がそれぞれ



実施状況（図書館）



実施状況（工学部）

れの持ち場で清掃作業を行いました。

今回で16回目を迎えたキャンパス・クリーン・デーは、札幌キャンパス内では恒例行事として認知されており、今後も継続して行う予定です。

キャンパス美化活動を推進し、綺麗

なキャンパスを目指すためにも、これからも多くの方々にご協力をいただきますようお願いいたします。

(施設部環境配慮促進課)



実施状況（北キャンパス）

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、5月に以下のとおり研修会を開催しました。

(高等教育推進機構)

第38回北海道大学教育ワークショップ 参加者：17名

開催日：5月17日（金）～18日（土）

開催場所：北広島クラッセホテル

開催概要：授業を構成するために必要な教育の基礎を理解すること、アクティブラーニング授業を設計する方法を理解した上でシラバスを作成すること、異分野の研究者と教育について語り刺激し合うことを目的として開催した。



ELMS講習会～授業でELMSを活用する～ 参加者：6名

開催日：5月24日（金）

開催場所：高等教育推進機構 2階E212教室

開催概要：ELMSの運用・管理を担当しているオープンエデュケーションセンターの職員による指導の下、実際にELMSを操作しながら操作方法を身につけ、Moodleを含めた活用事例等を学んだ。これまでELMS、Moodleを使用してこなかった教職員を対象とした基本的な操作方法を身につけることを目的として開催した。



講演会「アクティブラーニング授業の実践と普及に向けた諸課題」 参加者：27名

開催日：5月24日（金）

開催場所：情報教育館 3階スタジオ型研修室

開催概要：AI授業を実践し、学校全体に普及することを妨げている諸課題に対して、私たちは何をすべきなのか一緒に考えた。教員だけでなく事務職員も対象とし、課題解決に向け大学全体で取り組んでいくことを目的として開催した。



■ 部局ニュース

農学研究院・農学院・農学部・国際食資源学院で セミナー「北海道のワインと農業の未来について」を開催

農学研究院・農学院・農学部・国際食資源学院は、北海道との共催で5月18日（土）に農学部大講堂でセミナー「北海道のワインと農業の未来について」を開催しました。

このセミナーは、本学農学研究院・農学院・農学部・国際食資源学院と北海道経済部・農政部・水産林務部が締結している連携と協力に関する覚書に基づき、北海道の農業の将来を担う本学の学生を対象として、北海道のワインと農業の今後の展望を考えるセミナーで、本道の基幹産業である農林業と食関連産業への理解醸成を図ることを目的として開催したものです。

本セミナーでは、農林水産大臣の吉川貴盛氏をお招きして、農学研究院の曾根輝雄教授とともにご講演いただき、本学学生、教員及び北海道の関係者等約150名が参加しました。

西邑隆徳農学研究院長及び辻 泰弘北海道副知事による開会挨拶の後、曾根教授が「北海道大学におけるワイン教育研究の取組について」と題して講演を行いました。曾根教授は、北海道

経済部と連携して実施しているワインアカデミー、国際食資源学院での食資源学特別講義「ワイン生産学」及び本学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点での活動を交えながら、今後北海道がワイン産地としてさらに発展するためには、生産者とそれを支える大学、研究機関が有機的に連携し、北海道のワイン産業の課題を多面的に、分野横断的に解決していくことが不可欠であると説明しました。

続いて吉川大臣から「スマート農業で変わる北海道の農業」と題してご講演をいただきました。吉川大臣からは、2019年G20新潟農業大臣宣言に基づき、「農業・食品分野の持続可能性に向けたイノベーションの必要性」「農業・食品分野の包摂的かつ持続可能な成長に向けた農業・食品バリューチェーンへの着目の必要性」「世界的課題に対応するための協力及び知識の交換の必要性」「世界的なアウトリーチ活動とストックテイクの必要性」について紹介があった後、未来の協力に向けて、農業・食品分野が直面してい

る課題に対し、これまで以上に全ての関係者が地域、国内、国際的に共同して取り組むことにより対処しなければならないというメッセージをいただきました。

また、セミナーに引き続き、セイコーマート北海道大学店において、「北海道のワインと農業の未来を語る意見交換会」が実施されました。

本意見交換会には、吉川大臣及び本学学生のほか、北海道知事の鈴木直道氏、株式会社セコマ代表取締役社長の丸谷智保氏、北海道経済連合会会長の高橋賢友氏など40名以上が参加し、ジンギスカンを食べながら吉川大臣を囲んで農業の未来について意見交換を行い、大変有意義なものとなりました。

今回のセミナーにおいて、公務ご多忙の中、吉川大臣には貴重なお話をいただき、改めて感謝申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部・
国際食資源学院）



曾根教授による講演



吉川大臣による講演



意見交換会で挨拶する吉川大臣（中央）

タマサート大学法学部訪問団が法学研究科・法学部を来訪



集合写真

6月5日（水）、タイ王国のタマサート大学法学部の教職員からなる訪問団が、法学研究科・法学部を来訪されました。同大学法学部長のUdom Rathamarit教授、次期法学部長のMunin Pongsapan助教授及び前学長のSurapon Nitikraipot教授をはじめとする総勢13名の訪問団でした。

当日は、池田清治法学研究科長・法学部長の挨拶に続いて、1時間半にわたって、法学教育の国際化について熱心な意見交換を行いました。

本学における取組みとして、サマー・インスティテュート、HUSTEP、現代日本学プログラムとそれらにおける法学研究科・法学部提供科目、協定校との交換留学、留学生の受入状況、法学研究科・法学部で提供している模擬裁判・模擬仲裁の国際大会への学生の派遣について説明を行いました。

また、タイ王国からの留学生で、現

代日本学プログラムの学生で法学部3年のクアサクンロンロート・チュンルディさんも同席し、意見交換の一部の通訳をしたほか、本学での経験を紹介し、訪問団の皆さんから好評を博しました。

続いて、タマサート大学法学部の訪問団からは、学部と大学院の双方において、従来どおりのタイ語を用いたプログラムと並行して、英語による授業だけで学位を取得できる大規模なプログラムの実施状況について紹介がありました。また、法令や判例ではタイ語が用いられているなかで、英語による授業を行うにあたっての苦労や工夫も伺いました。タマサート大学法学部は、タイ王国で最も古く、そのような伝統ある法学部がこのような先駆的な取り組みを行っていること、また、タイ語を使わない法学教育を受けた卒業生の受け皿となる社会的ニーズも多く



Udom Rathamarit法学部長（左）と池田研究科長（右）



意見交換の様子

あるという状況について等の興味深いお話を聞くことができました。

和やかに進んだ意見交換会の後は、短時間ではありましたが、雨があがって緑の一層美しく映えた本学構内の散策を楽しんでいただきました。

今後、タマサート大学法学部と法学研究科・法学部のさらなる交流につなげるうえでも、有意義な機会となりました。

（法学研究科・法学部）

公共政策大学院が駐日欧州連合全権大使パトリシア・フロア閣下の講演会を開催

5月23日（木）、公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、駐日欧州連合（EU）特命全権大使パトリシア・フロア閣下をお迎えして本学学生向けの講演会を開催しました。

フロア大使は「日欧関係の新時代へ（“A New Era for EU-Japan Relations”）」と題した講演の中で、安全保障、人道的援助、人権問題といった政策分野におけるEUの政策・ミッションを詳説し、EUと日本が手を携えることの重要性、とりわけ両者の間で2018年に署名された「日EU戦略的パートナーシップ協定（SPA）」及び「日EU経済連携協定（EPA）」を中核として、安

全保障、科学技術、教育、文化の面でのパートナーシップをさらに深化させ、具体的な行動へと移していくことの意義を強調されました。

講演に続く質疑応答では、出席者から様々な質問が出ました。公共政策大学院2年の和泉優大さんはEUにおける紛争問題や少子化問題について、同大学院1年の近藤パドリックさんはEU域内における保守派やポピュリズムの問題について質問しました。これら以外の質問も含め、大使は全ての質問に丁寧に答えてくださいました。

今回の講演会には、笠原正典総長職務代理、遠藤 乾公共政策大学院院長、同大学院の小浜祥子准教授、そし

て200人を超える学生が公共政策大学院、法学部、文学部、経済学部等から出席し、会場は満席となりました。講演後、出席した学生からは「EUと日本がもっと結びつきを強める必要があると感じたし、自分もいずれそれに関われるようになりたい」「日本もEUのように女性が胸を張って活躍できる社会になればよいなと思った」「ヨーロッパに留学したいのでEUについて改めて勉強したい」「もっと英語を勉強したくなった」といった感想が寄せられました。なお講演・質疑応答はすべて英語で行われました。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



パトリシア・フロア駐日欧州連合全権大使による講演



会場の様子



関係者による記念写真

情報科学研究所と国際連携研究教育局 (GI-CoRE) ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション (GSB) が公開講座「人工知能とビッグデータ」を開催

5月26日(日)、情報科学研究所とGI-CoRE GSBの共同主催による公開講座「人工知能とビッグデータ」を札幌コンベンションセンターにて開催しました。

本講座は、回路とシステムの領域における世界最大の国際学会IEEE ISCAS 2019の札幌開催に合わせ、国内外から多くの著名な研究者が札幌に集う機会に、人工知能とビッグデータの利活用と未来社会について、一般向けにわかりやすく解説する趣旨のもと企画しました。また、道民カレッジ連携講座(教養型)としても登録され、道民カレッジ生を含め一般市民70名の参加がありました。

講座では、GSBのグローバルステーション長でありIEEE ISCAS 2019大会実行委員長を務めた情報科学研究所の宮永喜一教授の司会のもと、4名の研究者が本公開講座のテーマに関する最新の研究紹介を行いました。

はじめに、大阪大学大学院情報科学研究科の尾上孝雄教授から、「情報科学技術と未来社会」と題した講演が行われ、その後、本学情報科学研究所の

浅井哲也教授から、「人工知能チップによる未来社会」、続いて本学情報科学研究所教授、兼GSB副グローバルステーション長である吉岡真治教授から、「ビッグデータ解析による未来社会」についての講演が行われました。海外からは、GSBの連携大学のひとつであるオーストラリア・シドニー工科大学(UTS)のEryk Dutkiewicz教授から「IoTネットワークによる未来社会」と題し、宮永喜一教授の通訳のもと、一般参加者へもわかりやすい講演が行われました。

講座の最後には、宮永喜一教授より「最先端の研究はどうやって作られる?」と題し、最新の研究発表が行われる国際学会がどのように構成・開催されているかについて解説がなされた後、国際会議場の見学会が行われました。

人工知能や、ビッグデータ、IoTと

いった情報科学技術に関する解説とその未来像についての講演に加え、最先端研究のプレゼンテーションとはどういうものかを理解するため、実際に国際会議場を見学するなど、普段なかなか見聞きする機会が少ない内容に、多くの参加者から関心が寄せられ、本講座は盛会のうちに終了しました。

また、公開講座終了後、IEEE ISCAS 2019開催期間中(5月26日~29日)、GI-CoRE GSBの展示ブースを開設し、参加者にGSBの活動紹介を行いました。この国際会議は、約1,300名の参加者のうち、1,000名以上が国外の研究者であり、GSBや、GI-CoREの紹介だけではなく、本学の紹介も含めて、多くの方に、本学の教育・研究活動に関する情報発信をすることができました。

(情報科学研究所、国際連携研究教育局)



吉岡教授による講演の様子



質疑応答の様子(右から、宮永教授、Dutkiewicz教授、吉岡教授)



ISCAS 2019 GSBブース

函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施

5月15日（水）に、函館キャンパスにおいて「春のキャンパス一斉清掃」を実施しました。

当日は、函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行うことができ、大変きれいになりました。

参加人数は、学生・教職員を合わせ

て約200名となり、多くの方が参加しました。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて約1㎡になりました。

函館キャンパスでは毎年、春と秋の

2回、キャンパス一斉清掃を行っており、次回は10月頃を予定しています。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。ご協力ありがとうございました。

（水産科学院・水産科学研究所・水産学部）



ゴミ袋配布の様子



清掃活動を行う教員と学生



清掃活動を行う職員

植物園の夏期開園及び無料開園の実施

北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション植物園は、4月29日（月・祝）に、夏期開園を開始しました。本年は10連休中に開園初日を迎えたため、家族連れの方や暖かくなってからずっと開園を楽しみにしていたという方など、昨年より多い700名近くの方が来園されました。10連休期間中は天候にも恵まれたため、多くの方々に札幌の街中にある自然の一角で

のひとときを楽しんでいただくことができました。

また、5月4日（土・祝）みどりの日には、年に一度の無料開園を実施しました。当日は快晴でもあったため、昨年よりやや多い2,700名以上の方が来園され、園内は大変な賑わいをみせました。

当園は、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震により温室屋根ガラスが

破損したことに加えて冬季の積雪により破損ガラスが落下する恐れがあったため、やむなく12月から3月までの間、温室の公開を中止しておりました。この間、補修工事を実施し、春の開園に向け来園者の目線に立ち、見やすさや歩きやすさに重点を置いた温室内のリニューアルを行いました。段差を少なくし通路幅を広げたことにより、車いすやベビーカーを利用して



北ローンで仲間とくつろぐ来園者たち



今年の桜を写真におさめる来園者たち

でも安心して鑑賞いただけます。また、表示等についても全て整理を行い、よりわかりやすいご案内ができるよう組み替えていますので、植物園に

お越しの際にはぜひご覧ください。

今年の植物園は、11月3日（日・祝）まで開園（月曜日は休園、月曜日が休日となる場合はその翌平日に休

園）し、それ以降は、冬期間として温室のみの開館となります。

（北方生物圏フィールド科学センター）



宮部金吾記念館と近くの樹木を観察する来園者たち



北方民族標本園で珍しい植物を堪能する来園者たち



リニューアル後の温室

ウルトラマンゼロが北大病院小児科病棟の子どもたちと交流

4月25日（木）、ウルトラマンゼロが北大病院の小児科病棟を訪問し、入院中の子どもたちとふれ合いました。

子どもたちには、当日まで「ヒーローに会えるよ」とだけ伝えたサプライズ企画でしたが、小児科病棟内のプレイルームには、多くの子どもたちが集まりました。

司会者のお姉さんとの呼びかけにより颯爽と登場したウルトラマンゼロに、子どもたちは驚いた様子でしたが、「ウルトラじゃんけん」や手遊びを一緒に行うにつれ、笑顔に変わっていきました。

ウルトラマンゼロとの記念撮影では、ウルトラヒーローファンの男の子が「シュワッチ！」のかけ声とともにポーズを決めるなど、その様子を見ていた多くの親御さんからも嬉しそうな歓声があがっていました。

子どもたちやご家族にとって、ウルトラマンゼロから勇気と元気をもらった特別な1日になりました。

今回の訪問を実現してくださった「ウルトラマン基金」は、東日本大震災発生後に、被災地支援のため2011年3月に設立され、2015年からは児童養

護施設や子ども医療施設への支援活動も行っています。

（北海道大学病院）



ウルトラセブンを父に持つウルトラマンゼロ



みんなでウルトラじゃんけん！



笑顔でポーズを決めての記念撮影



ウルトラマン基金ファミリーの一員に！

©円谷プロ

看護週間—「看護の日のタベ」ほか様々な催しを実施

毎年5月12日（ナイチンゲール生誕日）を含む一週間は「看護週間」として制定されています。今年も本院では、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しを行いました。

5月8日（水）から14日（火）までの間、医科外来ホールには看護・くすり・栄養・歯の衛生・運動療法等の相談コーナーを設置しました。

5月14日（火）にはふれあい看護体験が行われ、札幌市内及び近郊の高校生が看護師とともに、病棟や外来で実際の看護業務を体験しました。

同日夜にはアメニティホールにて、「第29回看護の日のタベ」が秋田弘俊病院長の挨拶で開会し、札幌市立北辰中学校による合唱が行われました。誰もが知っている曲が演目となっており、会場からも手拍子が沸き起こる等、会場は大変盛り上がりしました。盛況の中、「第29回看護の日のタベ」は、高橋久美子看護部長の挨拶で幕を閉じました。このミニコンサートの様

子は、本院アメニティホールに設置されたライブカメラを通して、病室の無料チャンネルでテレビ放映されました。

看護週間にちなんだ催しは、今年で

29回目を迎えますが、「看護」という言葉のもつ重さを再認識する貴重な機会として定着しています。

（北海道大学病院）



秋田病院長による開会挨拶



高橋看護部長による閉会挨拶



毎年好評の「看護相談コーナー」



看護に関する展示コーナーを設置

北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

病気と闘う子どもたちを勇気づけるため、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督と選手によるひまわり分校訪問が、5月13日（月）に行われました。

ひまわり分校への訪問は院内学級時代を通じて13回目を数え、毎年、入院中の子どもたちが大変楽しみにしているイベントです。今年も、栗山監督のほか、中島卓也選手会長、大田泰示選

手、西川遥輝選手、上沢直之選手、近藤健介選手の6名が来院されました。

監督と選手は、秋田弘俊病院長、高橋久美子看護部長、深澤博昭事務部長、後藤佳子助教（スポーツ医学診療センター副部長）と懇談を行った後、本院6階の運動療法施設で、ひまわり分校の子どもたちからのインタビューやキャッチボールなどを通して交流を深めました。

また、病室から出られない子どもたちのために、小児科病棟に足を運び、監督と選手が病室を回って励ましました。子どもたちは一緒に写真を撮ったり、サインを書いてもらったりと、つかの間の楽しいひと時を過ごしました。

（北海道大学病院）



キャッチボールの様子



代表生徒からのお礼の言葉



病院長室での記念撮影

■お知らせ

「北海道大学 緑のビアガーデン2019」 「北海道大学 緑のジンギスカン Wine&Beer2019」を開催

毎年夏の恒例となっている「緑のビアガーデン」を、今年は7月12日（金）～19日（金）までの8日間、百年記念会館で開催します。今年は、昨年より期間を3日間延長し、土・日・祝日も開催します。また、実演販売には、昨年好評いただいた「元祖美唄やきとり 福よし」が今年も登場し、「やきとり」や「とりだしそば」など人気のフードメニューを提供します。緑の木々に囲まれながら、格別に美味しいビールを味わいませんか。

また、昨年、セイコーマート北海道大学店のオープン企画として実施した「緑のジンギスカンWine&Beer」を、今年も開催します。自然豊かなキャンパスの中で、ジンギスカンとワイン、ビールを囲みながら、夏のひと時を過ごしませんか。多くの皆様のお越しをお待ちしています。

○緑のビアガーデン2019

期間：7月12日（金）～19日（金）8日間

平日 17:00～20:30（20:00オーダーストップ）

土日祝 11:30～20:30（20:00オーダーストップ）

場所：百年記念会館（札幌市北区北9条西6丁目）

○緑のジンギスカンWine&Beer2019

期間：7月22日（月）～26日（金）5日間

17:00～20:30（20:00オーダーストップ）

場所：セイコーマート北海道大学店周辺

（札幌市北区北11条西7丁目）

（総務企画部広報課）

■諸会議の開催状況

役員会（令和元年5月13日）

議案・ロシアモスクワオフィスの開設について

協議事項・全学運用教員の措置について

- ・2020年度概算要求施設整備事業について
- ・特別拠点手当の新設について
- ・基幹経費化予算の配分方針（案）について
- ・令和元年度部局評価配分事業（案）について
- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・2019年度会計監査人候補者の選定について

教育研究評議会（令和元年5月22日）

議題・経営協議会の学外委員について

- ・2020年度概算要求施設整備事業について

役員会（令和元年5月27日）

議案・北海道大学における受動喫煙の防止対策について

- ・財務諸表で開示すべきセグメント情報の拡大について

協議事項・「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律」の施行に伴う日時給制職員に対する有給休暇の付与について

- ・就業規則関連規程の制定について

報告事項・2019年度以降の国立大学の学部における定員超過に係る国立大学法人運営費交付金の取扱いについて

- ・超過勤務実績及び時間外労働の縮減に向けての全学共通の必須の取組について
- ・平成30年度病院収支の概要について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程

(令和元年5月31日海大達第137号)

国際連携機構に、令和元年5月31日付けでロシアモスクワオフィスを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程

(令和元年5月31日海大達第138号)

本学が参画している大学連携研究設備ネットワークにおいて、本学の設備の一部を当該ネットワーク内の相互利用に供することに伴い、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程

(令和元年6月1日海大達第139号)

国際連携機構に、令和元年6月1日付けで北米ポートランドオフィスを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学環境健康科学研究教育センター規程の一部を改正する規程

(令和元年6月1日海大達第140号)

環境健康科学研究教育センターにおいて、研究生の受入れを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程の一部を改正する規程

(令和元年6月1日海大達第141号)

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センターにおいて、新たな教育プログラムを編成することに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 表敬訪問

海外

| 年月日 | 来訪者 | 来訪目的 |
|--------|--|--------------|
| 1.5.14 | タマサート大学(タイ) Gasinee Witoonchart 学長 | 両大学の交流に関する懇談 |
| 1.5.23 | 駐日欧州連合(EU)代表部代表 Patricia Flor大使 | 講演及び表敬訪問 |
| 1.5.31 | 包括的核実験禁止条約機関(CTBTO) Nurcan Meral Özel 国際監視制度局長 | 講演及び表敬訪問 |



タマサート大学(タイ) Gasinee Witoonchart 学長(中央右)



駐日欧州連合(EU)代表部代表 Patricia Flor 大使(中央右)



包括的核実験禁止条約機関(CTBTO) Nurcan Meral Özel 国際監視制度局長(中央左)

(国際部国際連携課)

人事

令和元年6月1日付発令

| 新職名(発令事項) | 氏名 | 旧職名(現職名) |
|---|------------------------|---------------------------------|
| 【教授】 大学院理学研究院教授 大学院医学研究院教授 北海道大学病院教授 | 石渡 正樹 高橋 誠 近藤 英司 | 大学院理学研究院准教授 東京医科歯科大学講師 採用 |

新任教授紹介

令和元年6月1日付



理学研究院教授に

いしわたり まさき
石渡 正樹 氏

地球惑星科学部門宇宙惑星科学分野

生年月日

昭和40年7月19日

最終学歴

東京大学大学院理学系研究科博士課程退学(平成7年3月)
博士(理学)(東京大学)

専門分野

惑星科学, 気候力学



医学研究院教授に

たかはし まこと
高橋 誠 氏

医学教育・国際交流推進センター

生年月日

昭和43年1月12日

最終学歴

東京医科歯科大学大学院医学系研究科博士課程修了(平成13年3月)
博士(医学)(東京医科歯科大学)

専門分野

医学教育, 整形外科, 脊椎外科



北海道大学病院教授に

こんどう えいじ
近藤 英司 氏

スポーツ医学診療センター

生年月日

昭和41年10月19日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了(平成16年3月)
博士(医学)(北海道大学)

専門分野

スポーツ医学, 膝関節外科

訃報

名誉教授 ^{かし}岸 ^{つとむ}力 氏
(享年92歳)



名誉教授 岸 力先生が平成31年4月15日にご逝去されました。

先生は昭和23年北海道大学工学部を卒業後、昭和25年同大学院特別研究生前期を終了され、直ちに建設省(現国土交通省)土木研究所に入所されました。その後同33年4月北海道大学助教授に採用され、同36年同大学工学部教授に昇任されました。爾来定年退職される平成2年までの32年にわたって、北海道大学工学部土木工学科河川工学講座を担当され、多くの博士・修士の卒業論文の指導、さらに河川工学・水工学を中心とした研究に多大な

貢献をされました。

教育面では、水理学、流体力学、河川工学、河川工学特論第一、同第二、同第三など多くの科目を担当され、さらに他大学でも多くの学生を指導されました。

研究面では、クラーク先生以来の建学の精神でもある「実学への適用」を常に強く意識するお考えに基づいた研究は非常に多方面にわたっており、一例をあげれば「波の誘起理論」があります。これまでは、砂浜で非常に漂砂の激しいところに人工的な港をつくるという例はありませんでしたが、岸先生の理論計算は苫子牧西港に適用され、苫子牧港の建設も順調に進み今日に至っています。これらの研究が認められ松永賞を授与されました。

学外では、日本学術会議(第5部)会員(工学)、土木学会評議員・理事・支部長・各種委員会委員長、国際的にも、国際流砂訓練センター運営委員(IRTCES・北京)などを歴任され、非常に広い範囲で活躍されました。

特に「カムバックサーモン・サーモン運動」を主宰されるなど、国を始め、都道府県、市町村のあらゆる問題解決に取り組み、紫綬褒章・勲二等瑞宝章・北海道新聞文化賞などを授与されました。

先生は、問題の提起から解決にいたるまですべて理路整然と進められ、若手の教育についても非常に尽力されました。ただし、アルコールは苦手、いわゆる世事は若干苦手のご様子でした。囲碁は5~6段、野球もなかなか確実なバッティング、小樽市のご出身でももちろんスキーもお上手、ニセコ、十勝の山小屋へはしばしば足を運ばれていました。

先生の永年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

*本記事については、板倉忠興名誉教授に執筆のご協力をいただきました。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 ^{かなり}金成 ^{せいいち}誠一 氏
(享年84歳)

名誉教授 金成誠一先生は、平成31年4月25日にご逝去されました。

先生は、昭和10年2月16日に茨城県に生まれ、同33年3月に東京水産大学水産学部漁業学科を卒業後、京都大学大学院理学研究科に進み、同39年3月に同大学院理学研究科博士課程を単位取得退学し、同年4月京都大学防災研究所助手に任ぜられました。その後同49年11月に東京水産大学水産学部助教授を経て、同55年10月北海道大学理学部教授として着任され地球物理学科海洋物理学講座を新設いたしました。その後、平成6年度の大学院重点化にともない地球惑星科学専攻地球惑星流体科学講座勤務となり、平成10年3月定年により退職し、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生はSea Going Oceanographerと

して、数多くの航海に参加され観測研究を展開されました。たとえば先生は日本における海洋乱流観測の草分けです。海洋の乱流は、海洋の流れを決定する重要な要因であり、気候変動における熱バランスや海洋生物生産に不可欠な栄養分輸送に重要な役割を果たします。海洋乱流の観測には数mmオーダーの海洋中の速度の変化成分を測定しなくてはなりません。先生は日本ではじめてこの測定を可能とするMicro Structure Profilerを開発し、これによって日本の乱流観測は大きく発展しました。今日Micro Structure Profilerは、数多くの研究機関で用いられる現場観測の主要観測装置の一つとして、海洋研究とその応用を支えています。先生が活躍された時代は海洋物理学が、地球の気候研究の一部としての重要性を増す時代でもありました。先生は、エル・ニーニョ現象の機構を明らかにすることを目的として、Tropical

Ocean and Global Atmosphere という国際プロジェクトに参加され、熱帯太平洋で観測を行いました。この国際プロジェクトは、その後今日まで続くCLIVAR(気候と海洋変動・予測可能性・変化研究計画)という一大国際プロジェクトに発展しています。

先生は、多くの若者に海洋物理学の楽しさを教え、学生がのびのびと研究できる環境を作り、多くの有為の人材を輩出しました。先生は学生の主体性を重んじ、その結果、実に様々なタイプの研究者が研究室から巣立ち、今日の海洋物理学および関連学問分野で幅広く活躍しています。

先生の永年にわたるご指導・ご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

(理学院・理学研究院・理学部)

資料

在籍学生数 (令和元年5月1日現在)

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率 (それぞれ赤字で表記)。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数 (工学部は高専卒業者の受入れ)。
 4 以下の表は, すべて外国人留学生数を含む。

学部

| 学部等名 | 入学定員 | 在籍者数 | | | | | | | 研究生 | 聴講生 | 科目等履修生 | 特別聴講生 | 合計 |
|------------------|---------------------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|---------------------------|-----|-----|--------|-------|---------------------------|
| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 6年次 | 計 | | | | | |
| 文学部 | 185人 [人] | — | 185人 | 197人 | 226人 | — | — | 608人 (276 <45.4% >) | 26人 | 10人 | 3人 | 86人 | 733人 (363 <49.5% >) |
| 教育学部 | 50 [10] | — | 48 | 65 | 69 | — | — | 182 (69 <37.9 >) | 8 | | 4 | | 194 (78 <40.2 >) |
| 法学部 | 200 [10] [10] | — | 218 | 225 | 237 | — | — | 680 (192 <28.2 >) | | 2 | 1 | 14 | 697 (202 <29.0 >) |
| 経済学部 | 190 | — | 203 | 197 | 242 | — | — | 642 (154 <24.0 >) | 13 | | | 18 | 673 (171 <25.4 >) |
| 理学部 | 300 | — | 318 | 311 | 366 | — | — | 995 (223 <22.4 >) | | | 1 | 9 | 1,005 (227 <22.6 >) |
| 医学部 | 287 [5] | — | 296 | 317 | 291 | 115 | 107 | 1,126 (484 <43.0 >) | 2 | | | 5 | 1,133 (487 <43.0 >) |
| 歯学部 | 53 | — | 57 | 50 | 47 | 56 | 52 | 262 (106 <40.5 >) | 2 | | | | 264 (106 <40.2 >) |
| 薬学部 | 80 | — | 79 | 82 | 78 | 31 | 29 | 299 (128 <42.8 >) | | | 6 | | 305 (129 <42.3 >) |
| 工学部 | 670 [10] | — | 688 | 728 | 825 | — | — | 2,241 (289 <12.9 >) | | 1 | 1 | 37 | 2,280 (303 <13.3 >) |
| 農学部 | 215 | — | 224 | 220 | 251 | — | — | 695 (264 <38.0 >) | 2 | 5 | | 8 | 710 (268 <37.7 >) |
| 獣医学部 | 40 | — | 40 | 43 | 43 | 40 | 49 | 215 (109 <50.7 >) | | | | 1 | 216 (109 <50.5 >) |
| 水産学部 | 215 | — | 231 | 225 | 197 | — | — | 653 (173 <26.5 >) | 2 | | | 10 | 665 (180 <27.1 >) |
| 現代日本学 プログラム課程 | — | — | 15 | 13 | 17 | — | — | 45 (33 <73.3 >) | | | | | 45 (33 <73.3 >) |
| 総合教育部 | — | 2,668 | — | — | — | — | — | 2,668 (767 <28.7 >) | | | | 371 | 3,039 (916 <30.1 >) |
| 合計 | 2,485 [15] [30] | 2,668 | 2,602 | 2,673 | 2,889 | 242 | 237 | 11,311 (3,267 <28.9 >) | 55 | 18 | 16 | 559 | 11,959 (3,572 <29.9 >) |

※学部の入学定員は, 学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

研究所等

| 研究所等名 | 研究生 | 特別研究学生 | 日本語・日本文化 研修生 | 日本語研修生 | 合計 |
|------------------|-----|--------|-----------------|--------|--------------------|
| 高等教育推進機構 | 4人 | — | 47人 | 18人 | 69人 (45 < 65.2% >) |
| 国際連携機構 | — | — | — | — | 0 (0 < 0.0 >) |
| 低温科学研究所 | 2 | — | — | — | 2 (1 < 50.0 >) |
| 電子科学研究所 | 2 | 1 | — | — | 3 (2 < 66.7 >) |
| 遺伝子病制御研究所 | 4 | — | — | — | 4 (1 < 25.0 >) |
| 触媒科学研究所 | 2 | — | — | — | 2 (0 < 0.0 >) |
| スラブ・ユーラシア研究センター | — | — | — | — | 0 (0 < 0.0 >) |
| 情報基盤センター | 2 | — | — | — | 2 (0 < 0.0 >) |
| 北方生物圏フィールド科学センター | 3 | — | — | — | 3 (3 < 100.0 >) |
| 観光学高等研究センター | — | — | — | — | 0 (0 < 0.0 >) |
| 総合博物館 | — | — | — | — | 0 (0 < 0.0 >) |
| 合計 | 19 | 1 | 47 | 18 | 85 (52 < 61.2 >) |

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。
 生命科学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。
 医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

■大学院

| 研究科名 | 修士課程(博士前期) | | | | 専門職学位課程 | | | | 博士課程(博士後期及び博士一貫) | | | | | 研究 | 聴講生 | 科目等履修生 | 特別研究学生 | 特別聴講学生 | 合計 | | |
|-----------------------|------------|-------|-------|-------------------------|---------|------|-----|-----|--------------------|------|-----|-----|-----|-----|-----------------------|--------|--------|--------|----|----------------------|-------------------------|
| | 入学定員 | 在籍者数 | | | 入学定員 | 在籍者数 | | | 入学定員 | 在籍者数 | | | | | | | | | | | |
| | | 1年次 | 2年次 | 小計 | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | | 小計 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | | | | | | | 4年次 | 小計 |
| 文 学 院 | 90人 | 106人 | —人 | 106人 (49(46.2%)) | —人 | —人 | —人 | —人 | —人 | 35人 | 30人 | —人 | —人 | —人 | 30人 (9(30.0%)) | 8人 | 5人 | 3人 | 5人 | 149人 (67(45.0%)) | |
| 文学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 8人 (5(62.5%)) | |
| 文学研究科 | — | 5 | 121 | 126 (80(63.5%)) | — | — | — | — | — | — | 2 | 39 | 90 | — | 131 (66(50.4%)) | — | — | — | 1 | 258 (147(57.0%)) | |
| 法学研究科 | 20 | 26 | 19 | 45 (20(44.4%)) | 50 | 16 | 12 | 13 | 41 (16(22.5%)) | 15 | 5 | 8 | 15 | — | 28 (8(28.6%)) | 18 | — | 1 | 5 | 172 (65(37.8%)) | |
| 情報科学院 | 179 | 202 | — | 202 (24(11.9%)) | — | — | — | — | — | 43 | 36 | — | — | — | 36 (4(11.1%)) | — | — | — | 4 | 242 (28(11.6%)) | |
| 情報科学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 9 | — | — | — | 9人 (3(33.3%)) | |
| 情報科学研究科 | — | 6 | 233 | 239 (20(8.4%)) | — | — | — | — | — | — | 12 | 42 | 64 | — | 118 (19(16.1%)) | 3 | — | — | 1 | 361 (40(11.1%)) | |
| 薬学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 | — | — | — | 1人 (1(100.0%)) | |
| 水産科学院 | 90 | 117 | 122 | 239 (57(23.8%)) | — | — | — | — | — | 35 | 14 | 18 | 23 | — | 55 (15(27.3%)) | — | — | — | 1 | 295 (72(24.4%)) | |
| 水産科学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 | — | — | — | 2人 (0(0.0%)) | |
| 環境科学院 | 159 | 152 | 172 | 324 (106(32.7%)) | — | — | — | — | — | 63 | 37 | 39 | 73 | — | 149 (57(38.3%)) | 1 | — | — | 3 | 478 (165(34.5%)) | |
| 地球環境科学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 11 | — | — | — | 11人 (3(27.3%)) | |
| 理 学 院 | 127 | 152 | 142 | 294 (56(19.0%)) | — | — | — | — | — | 55 | 48 | 45 | 67 | — | 160 (28(17.5%)) | — | — | — | — | 454 (84(18.5%)) | |
| 理学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 11 | — | — | — | 11人 (6(54.5%)) | |
| 農 学 院 | 142 | 187 | 201 | 388 (136(33.1%)) | — | — | — | — | — | 36 | 43 | 34 | 71 | — | 148 (42(28.4%)) | — | — | — | 2 | 539 (179(33.2%)) | |
| 農学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 16 | — | — | — | 16人 (9(56.3%)) | |
| 生命科学院 | 132 | 133 | 148 | 281 (107(38.1%)) | — | — | — | — | — | 44 | 32 | 39 | 63 | — | 159 (41(25.8%)) | — | — | — | 1 | 441 (148(33.6%)) | |
| 先端生命科学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 | — | — | — | 3人 (1(33.3%)) | |
| 教育学院 | 45 | 50 | 55 | 105 (61(58.1%)) | — | — | — | — | — | 21 | 22 | 17 | 58 | — | 97 (50(51.5%)) | — | — | 1 | 4 | 208 (116(55.8%)) | |
| 教育学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 | — | — | — | 5人 (4(80.0%)) | |
| 国際広報メディア・観 光学 院 | 47 | 52 | 62 | 114 (87(76.3%)) | — | — | — | — | — | 12 | 13 | 7 | 54 | — | 74 (34(45.9%)) | — | — | 2 | 5 | 195 (127(65.1%)) | |
| メディア・コミュニ ケーション研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 9 | — | — | — | 9人 (9(100.0%)) | |
| 保健科学院 | 40 | 58 | 52 | 110 (65(59.1%)) | — | — | — | — | — | 10 | 14 | 8 | 22 | — | 44 (18(40.9%)) | — | — | — | — | 154 (83(53.9%)) | |
| 保健科学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 12 | — | — | — | 12人 (7(58.3%)) | |
| 工 学 院 | 326 | 398 | 393 | 791 (125(15.8%)) | — | — | — | — | — | 69 | 62 | 67 | 85 | — | 214 (33(15.4%)) | — | — | — | 6 | 1021 (163(16.0%)) | |
| 工学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 23 | — | — | — | 23人 (4(17.4%)) | |
| 工学研究科 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 総合化学院 | 129 | 153 | 168 | 321 (76(23.7%)) | — | — | — | — | — | 38 | 42 | 42 | 52 | — | 136 (40(29.4%)) | — | — | — | 6 | 464 (118(25.4%)) | |
| 経済学院 | 35 | 45 | 57 | 102 (67(63.7%)) | 20 | 18 | 20 | — | 38 (14(36.8%)) | 8 | 8 | 7 | 10 | — | 25 (12(48.0%)) | — | — | — | 1 | 166 (94(56.6%)) | |
| 経済学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 経済学研究科 | — | — | 1 | 1 (1(100.0%)) | — | — | — | — | — | — | — | — | 9 | — | 9 (1(11.1%)) | — | — | — | — | 10 (2(20.0%)) | |
| 医 学 院 | 20 | 3 | 33 | 54 (25(46.3%)) | — | — | — | — | — | 90 | 111 | 96 | 77 | — | 284 (64(22.5%)) | — | — | — | 3 | 341 (90(26.4%)) | |
| 医学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 | — | — | — | 5人 (0(0.0%)) | |
| 医学研究科 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 | 19 | 132 | 173 (43(24.9%)) | — | — | — | — | 173 (43(24.9%)) | |
| 歯 学 院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 40 | 39 | 47 | 18 | — | 104 (34(32.7%)) | — | — | — | — | 104 (34(32.7%)) | |
| 歯学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 4 | — | — | — | 4人 (2(50.0%)) | |
| 歯学研究科 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 | 4 | 41 | 46 (18(39.1%)) | — | — | — | — | 46 (18(39.1%)) | |
| 獣医学院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 16 | 14 | 15 | 11 | — | 40 (14(35.0%)) | — | — | — | — | 40 (14(35.0%)) | |
| 獣医学研究院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 | — | — | — | 3人 (2(66.7%)) | |
| 獣医学研究科 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 | — | 9 | 27 | 37 (17(45.9%)) | — | — | — | — | 37 (17(45.9%)) | |
| 医理工学院 | 12 | 16 | 12 | 28 (4(14.3%)) | — | — | — | — | — | 5 | 8 | 6 | 6 | — | 20 (2(10.0%)) | — | — | — | — | 48 (6(12.5%)) | |
| 国際感染症学院 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 12 | 12 | 18 | 11 | — | 41 (16(39.0%)) | — | — | — | — | 41 (16(39.0%)) | |
| 国際食資源学院 | 15 | 19 | 17 | 36 (18(50.0%)) | — | — | — | — | — | 6 | 6 | — | — | — | 6 (4(66.7%)) | — | — | — | — | 42 (22(52.4%)) | |
| 公共政策学教育部 | — | — | — | — | 30 | 27 | 39 | — | 66 (18(27.3%)) | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 | — | 68 (18(26.5%)) | |
| 公共政策学連携研究部 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 合 計 | 1,608 | 1,898 | 2,008 | 3,906 (1,184(30.3%)) | 100 | 75 | 87 | 13 | 175 (48(27.4%)) | 659 | 613 | 602 | 917 | 232 | 2,364 (689(29.1%)) | 143 | 6 | 9 | 38 | 28 | 6,669 (2,032(30.5%)) |

(学務部国際交流課)

令和元年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和元年5月1日現在

| 部 局 名 | 国費留学生 | | 外国政府派遣留学生 | | 私費留学生 | | 合 計 |
|--------------|--------|-------|-----------|------|---------|-----------|-----------|
| | 学士課程 | 研究生等 | 学士課程 | 研究生等 | 学士課程 | 研究生等 | |
| 文 学 部 | 1 (1) | | | | | 110 (80) | 111 (81) |
| 経 済 学 部 | | 1 (1) | | | 1 | 14 (10) | 15 (10) |
| 医 学 部 | 1 | | | | 3 (1) | 30 (16) | 34 (18) |
| 獣 医 学 部 | | | | | | 2 (1) | 3 (1) |
| 水 産 学 部 | | 1 | | | | 1 | 1 |
| 理 学 部 | | | 1 | | 2 (2) | 11 (7) | 14 (9) |
| 薬 学 部 | 1 | | | | 11 (5) | 9 (4) | 21 (9) |
| 農 学 部 | | | | | 1 | | 2 |
| 教 育 学 部 | | | | | 6 (5) | 6 (1) | 12 (6) |
| 工 学 部 | 31 (3) | | 7 (4) | | 1 (1) | 6 (6) | 7 (7) |
| 現代日本学プログラム課程 | 1 | | | | 13 (1) | 35 (13) | 86 (21) |
| 総合教育 | 15 (3) | | | | 44 (33) | | 45 (33) |
| 合 計 | 50 (7) | 2 (1) | 8 (4) | 0 | 33 (11) | 224 (138) | 399 (209) |

大学院等

| 部 局 名 | 国費留学生 | | | | 外国政府派遣留学生 | | | | 私費留学生 | | | | 合 計 |
|-------------------|---------|---------|----------|---------|-----------|---------|---------|-------|-----------|---------|-----------|----------|-------------|
| | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | 研究生等 | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | 研究生等 | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | 研究生等 | |
| 文 学 院 | 2 (1) | | 3 (1) | | | | | | 42 (27) | | 9 (6) | 5 (4) | 61 (39) |
| 文 学 研 究 院 | | | | 1 (1) | | | | | | | | 3 (3) | 4 (4) |
| 法 学 研 究 院 | 1 (1) | | 7 (3) | | | | 2 | | 51 (48) | | 42 (25) | 1 (1) | 104 (78) |
| 経 済 学 研 究 院 | 1 (1) | | | | | 1 | | | 35 (17) | | 8 (1) | 27 (21) | 72 (40) |
| 医 学 研 究 院 | 6 (2) | | 5 (2) | | | | | | 80 (60) | 11 (7) | 9 (7) | 1 (1) | 112 (79) |
| 獣 医 学 研 究 院 | 1 (1) | | 7 (5) | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 医 学 研 究 院 | | | | 1 | | | | | 5 (2) | | 18 (9) | 2 | 31 (17) |
| 歯 学 研 究 院 | | | 3 (1) | | | | 2 | | | | 7 (6) | | 12 (7) |
| 歯 学 研 究 院 | | | 1 (1) | | | | | | | | 11 (6) | | 12 (7) |
| 歯 学 研 究 院 | | | | | | | | | | | | 1 (1) | 1 (1) |
| 獣 医 学 研 究 院 | | | | | | | | | | | 3 (2) | | 3 (2) |
| 獣 医 学 研 究 院 | | | 13 (5) | | | | | | | | 8 (3) | | 21 (8) |
| 獣 医 学 研 究 院 | | | | | | | | | | | | 1 (1) | 1 (1) |
| 獣 医 学 研 究 院 | | | 12 (6) | | | | | | | | 8 (6) | | 20 (12) |
| 情報科学研究所 | | | 1 (1) | | | | | | 12 (3) | | 7 (1) | 4 | 24 (5) |
| 情報科学研究所 | | | | 3 | | | | | | | | 4 (2) | 7 (2) |
| 情報科学研究所 | 1 (1) | | 5 (1) | 1 | | | 3 (1) | | 34 (4) | | 32 (13) | 3 (1) | 79 (21) |
| 水産科学研究院 | 1 (1) | | 4 (1) | | | | 4 (3) | | 13 (6) | | 14 (4) | 1 | 37 (15) |
| 地球環境科学研究院 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 地球環境科学研究院 | 9 (5) | | 16 (6) | | | | 4 (2) | | 73 (30) | | 49 (23) | 2 (2) | 153 (68) |
| 地理学研究所 | 3 (1) | | 14 (4) | | | | | | 27 (14) | | 37 (10) | | 81 (29) |
| 理学研究所 | | | | 1 (1) | | | | | | | | 5 (2) | 6 (3) |
| 薬学研究所 | | | | 1 (1) | | | | | | | | | 1 (1) |
| 農学研究所 | 10 (6) | | 17 (11) | | | | 2 (1) | | 42 (23) | | 49 (14) | 2 (1) | 122 (56) |
| 農学研究所 | | | | 4 (3) | | | | | | | | 10 (6) | 14 (9) |
| 先端生命科学研究所 | 3 | | 23 (8) | | 1 | | 3 (1) | | 43 (20) | | 25 (10) | 1 | 99 (39) |
| 先端生命科学研究所 | 1 (1) | | 1 | | | | 1 (1) | | 40 (29) | | 17 (13) | 3 (1) | 3 (1) |
| 教育学研究所 | | | | 2 (2) | | | | | | | | 1 (1) | 3 (3) |
| メディア・コミュニケーション研究所 | | | | 1 (1) | | | | | | | | 8 (8) | 9 (9) |
| 国際広報メディア・観光学研究所 | 4 (4) | | 2 (1) | | | | | | 82 (65) | | 23 (14) | 5 (4) | 116 (88) |
| 保健科学研究所 | | | 2 (2) | | | | | | 17 (13) | | 5 (4) | | 24 (19) |
| 保健科学研究所 | | | | | | | | | | | | 9 (6) | 9 (6) |
| 工学研究所 | 29 (6) | | 28 (7) | | 1 (1) | | 17 (3) | 1 (1) | 95 (31) | | 50 (13) | 14 (4) | 235 (66) |
| 工学研究所 | | | | 1 | | | | | | | | 21 (4) | 22 (4) |
| 総合化学研究所 | 2 (1) | | 10 (8) | | | | 6 (2) | | 34 (10) | | 48 (18) | 6 (2) | 106 (41) |
| 医 学 研 究 院 | | | | | | | | | | | 5 (1) | | 5 (1) |
| 国際感染症学研究所 | | | 12 (6) | | | | | | | | 9 (2) | | 21 (8) |
| 国際食資源学研究所 | 1 | | 1 (1) | | | | | | 6 (2) | | 3 (3) | | 11 (6) |
| 公共政策学教育部 | | | | | | | | | | 20 (13) | | | 20 (13) |
| 電子科学研究所 | | | | | | | | 1 (1) | | | | 2 (1) | 3 (2) |
| 遺伝子病制御研究所 | | | | | | | | | | | | 3 (1) | 3 (1) |
| 触媒科学研究所 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 情報基盤センター | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 北方生物圏フィールド科学センター | | | | | | | | | | | | 3 (3) | 3 (3) |
| 高等教育推進機構 | | | | 1 | | | | | | | | 3 (1) | 4 (1) |
| 低温科学研究所 | | | | 2 (1) | | | | | | | | | 2 (1) |
| 合 計 | 75 (32) | 0 | 187 (81) | 22 (10) | 2 (1) | 0 | 45 (14) | 2 (2) | 731 (404) | 31 (20) | 497 (214) | 167 (89) | 1,759 (867) |

日本語研修生等

| 高 等 教 育 推 進 機 構 | 日本語・日本文化研修生 | | | 日本語研修生 | | 合 計 |
|-----------------|-------------|--------|--------|--------|-----|--------|
| | 国 費 | 外国政府派遣 | 私 費 | 国 費 | 私 費 | |
| | 20(14) | 5(3) | 22(19) | 18(8) | 0 | 65(44) |

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

| 学部留学生数 | 大 学 院 留 学 生 | | | 研 究 生 等 | 日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生 | 留 学 生 総 数 | 外 国 人 学 生 （「留学」以外） | 留 学 生 及 び 外 国 人 学 生 総 計 |
|---------|-------------|---------|----------|----------|----------------------------|--------------|-----------------------|----------------------------|
| | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | | | | | |
| 173(70) | 808(437) | 31(20) | 729(309) | 417(240) | 65(44) | 2,223(1,120) | 45(20) | 2,268(1,140) |

* ()内は女子を内数で示す

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

(学務部国際交流課)

平成30年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学部

令和元年5月1日現在

| 学部・学科 項目 | 文学部 | | 教育学部 | | 法学部 | | 経済学部 | | 理学部 | | 医学部 | | 歯学部 | 薬学部 | | 工学部 | 農学部 | 獣医学部 | 水産学部 | 合計 |
|---------------|--------|---------|--------|--------|---------|-------|--------|-------|---------|--------|---------|---------|--------|-----------|-----------|-------|-----|------|------|----|
| | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | | 薬科学科(4年制) | 薬学科(6年制) | | | | | |
| (A) 卒業生数 | 83 | 29 | 73 | 41 | 79 | 31 | 127 | 20 | 15 | 14 | 104 | 88 | 12 | 35 | 751 | 2508 | | | | |
| (B) 就職希望者数 | 66 | 18 | 58 | 36 | 10 | 0 | 79 | 0 | 1 | 14 | 21 | 25 | 11 | 15 | 354 | 908 | | | | |
| (C) 就職者数 | (0) 62 | (11) 18 | (0) 56 | (0) 34 | (0) 8 | (0) 0 | (0) 79 | (0) 0 | (0) 1 | (0) 14 | (0) 19 | (0) 23 | (0) 11 | (0) 14 | (339) | 890 | | | | |
| うち 道外就職者 | (30) | (10) | (34) | (26) | (8) | (0) | (19) | (0) | (1) | (11) | (14) | (15) | (8) | (6) | (182) | 540 | | | | |
| うち 有職者 | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (D) 就職率(%) | 93.9 | 100.0 | 96.6 | 94.4 | 80.0 | - | 100.0 | - | 100.0 | 100.0 | 90.5 | 92.0 | 100.0 | 93.3 | 95.8 | 94.7 | | | | |
| 昨年の就職率(%) | 93.2 | 95.0 | 93.5 | 95.0 | 83.3 | - | 97.9 | - | 100.0 | 100.0 | 90.0 | 92.0 | 100.0 | 93.8 | 95.5 | 94.2 | | | | |
| (E) 進学者数 | (8) 10 | (7) 8 | (5) 6 | (4) 4 | (56) 60 | (0) 1 | (0) 43 | (0) 0 | (13) 14 | (0) 0 | (77) 80 | (56) 61 | (0) 1 | (18) 18 | (241) 306 | 1227 | | | | |
| うち 大学院 | (8) 10 | (7) 7 | (5) 6 | (4) 4 | (56) 60 | (0) 1 | (0) 38 | (0) 0 | (13) 14 | (0) 0 | (77) 80 | (56) 61 | (0) 1 | (18) 18 | (241) 300 | 1318 | | | | |
| うち 大学 | (0) 0 | (0) 1 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 5 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 6 | 9 | | | | |
| うち 就職している者 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |
| (F) その他 | 11 | 3 | 11 | 3 | 11 | 30 | 5 | 20 | 0 | 0 | 5 | 4 | 0 | 3 | 106 | 321 | | | | |

- ・ A = C + E + F ・ D = C ÷ B × 100 ・ 上段 () は女子で内数/就職率 () は女子の就職率
- ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
- ・ 進学者数 [] は、本学進学者数で内数。
- ・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数。
- ◇医学部医学科については、卒業後2年間の臨床研修期間がある。
- ◇歯学部については、卒業後1年間の臨床研修期間がある。
- ◇薬学部は、4年制(薬科学科)と、6年制(薬学科)がある。

修士課程

| 研究科学院 項目 | 文学研究科 | 法学研究科 | 情報科学研究科 | 水産科学院 | 環境科学院 | 理学院 | 農学院 | 生命科学学院 | 教育学院 | 国際広報メディア・観光学院 | 保健科学院 | 工学院 | 総合化学院 | 経済学研究科* | 医学研究科* | 医学院公衆衛生学コース(1年コース) | 理工工学院 | 国際食資源学院 | 合計 |
|---------------|--------|-------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|---------------|--------|--------|--------|---------|--------|--------------------|-------|---------|---------|
| | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) | 人数(名) |
| (A) 修了者数 | 32 | 9 | 22 | 25 | 53 | 18 | 54 | 38 | 32 | 26 | 21 | 58 | 28 | 18 | 12 | 0 | 0 | 7 | 453 |
| (B) 就職希望者数 | 17 | 4 | 16 | 23 | 40 | 11 | 42 | 30 | 17 | 14 | 19 | 43 | 22 | 10 | 6 | 0 | 0 | 4 | 318 |
| (C) 就職者数 | (0) 14 | (0) 4 | (0) 16 | (0) 22 | (0) 38 | (0) 9 | (1) 40 | (0) 30 | (1) 16 | (3) 9 | (0) 19 | (0) 40 | (0) 22 | (0) 9 | (0) 5 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 4 | (5) 297 |
| うち 道外就職者 | (5) | (2) | (14) | (20) | (30) | (7) | (28) | (26) | (5) | (7) | (11) | (30) | (22) | (6) | (4) | (0) | (0) | (4) | (230) |
| うち 有職者 | (1) | (1) | (0) | (0) | (2) | (0) | (0) | (0) | (1) | (2) | (0) | (0) | (0) | (1) | (0) | (0) | (0) | (0) | (7) |
| (D) 就職率(%) | 82.4 | 100.0 | 100.0 | 95.7 | 95.0 | 81.8 | 95.2 | 100.0 | 94.1 | 64.3 | 100.0 | 98.0 | 100.0 | 90.0 | 83.3 | - | - | 100.0 | 93.4 |
| 昨年の就職率(%) | 81.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 92.1 | 100.0 | 94.4 | 100.0 | 66.7 | 77.3 | 93.3 | 100.0 | 96.3 | 86.7 | 92.9 | - | - | - | 92.9 |
| (E) 進学者数 | (6) 6 | (0) 2 | (4) 4 | (1) 1 | (8) 8 | (4) 5 | (5) 7 | (6) 6 | (5) 5 | (4) 5 | (0) 1 | (4) 6 | (5) 5 | (3) 3 | (4) 5 | (0) 0 | (0) 0 | (2) 3 | (61) 72 |
| うち 大学院 | (6) 6 | (0) 2 | (4) 4 | (1) 1 | (8) 8 | (4) 5 | (5) 7 | (6) 6 | (5) 5 | (4) 5 | (0) 1 | (4) 6 | (5) 5 | (3) 3 | (4) 5 | (0) 0 | (0) 0 | (2) 3 | (61) 72 |
| うち 大学 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 |
| うち 就職している者 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 1 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 2 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 1 | (0) 0 | (0) 5 |
| (F) その他 | 12 | 3 | 2 | 2 | 7 | 4 | 7 | 2 | 11 | 12 | 1 | 12 | 1 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 84 |

- ・ A = C + E + F ・ D = C ÷ B × 100 ・ 上段 () は女子で内数/就職率 () は女子の就職率
- ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
- ・ 進学者数 [] は、本学進学者数で内数。
- ・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数。
- ◇平成29年4月1日付で経済学研究科、医学研究科は、経済学院、医学院に改組。

専門職大学院

| 項目 | 研究科等 | | 法科大学院 (法学研究科) | | 会計専門職大学院 (経済学研究科*) | | 公共政策大学院 (公共政策学教育部) | | 合 計 | |
|-----------|---------|--|------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|---------|--|
| | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | |
| (A) | | | (9) | | (5) | | (13) | | (27) | |
| 修了者数 | 39 | | 21 | | 37 | | 97 | | | |
| (B) | | | (1) | | (2) | | (11) | | (14) | |
| 就職希望者数 | 2 | | 12 | | 32 | | 46 | | | |
| (C) | [(1)] | | (1) | | [(0)] | | (0) | | [(1)] | |
| 就職者数 | [1] | | 2 | | [0] | | 9 | | [1] | |
| うち | (0) | | (0) | | (0) | | (6) | | (6) | |
| 道外就職者 | 0 | | 6 | | 20 | | 26 | | | |
| うち | (0) | | (0) | | (1) | | (1) | | (1) | |
| 有職者 | 1 | | 0 | | 4 | | 5 | | | |
| (D) | (100.0) | | - | | (100.0) | | (85.7) | | (85.7) | |
| 就職率(%) | 100.0 | | 75.0 | | 93.8 | | 89.1 | | | |
| 昨年の就職率(%) | (100.0) | | (100.0) | | (100.0) | | (100.0) | | (100.0) | |
| | 100.0 | | 100.0 | | 100.0 | | 100.0 | | | |
| (E) | [(0)] | | (0) | | [(0)] | | (0) | | [(0)] | |
| 進学者数 | [0] | | 0 | | [0] | | 0 | | [0] | |
| うち | [(0)] | | (0) | | [(0)] | | (0) | | [(0)] | |
| 大学院 | [0] | | 0 | | [0] | | 0 | | [0] | |
| うち | [(0)] | | (0) | | [(0)] | | (0) | | [(0)] | |
| 大学 | [0] | | 0 | | [0] | | 0 | | [0] | |
| うち | [(0)] | | (0) | | [(0)] | | (0) | | [(0)] | |
| 就職している者 | [0] | | 0 | | [0] | | 0 | | [0] | |
| (F) | (8) | | (5) | | (2) | | (15) | | (15) | |
| その他 | 37 | | 12 | | 7 | | 56 | | | |

- ・ A = C + E + F ・ D = C ÷ B × 100 ・ 上段 () は女子で内数/就職率 () は女子の就職率
- ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
- ・ 進学者数 [] は、本学進学者数で内数。
- ・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数。
- ◇法科大学院の(F)その他には、修了後に実施される司法試験の受験準備者を含む。
- ◇平成29年4月1日付で経済学研究科は経済学院に改組。

博士課程

| 項目 | 文学研究科 | | 法学研究科 | | 情報科学研究科 | | 水産科学院 | | 環境科学院 | | 理学院 | | 農学院 | | 生命科学学院* | | 教育学院 | | 国際広報メディア・観光学院 | | 保健科学院 | | 工学院* | | 総合化学院 | | 経済学研究科* (経済学院含む) | | 医学研究科* | | 歯学研究科* | | 獣医学研究科* | | 合 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-------|--|-------|--|---------|--|-------|--|--------|--|-------|--|-------|--|---------|--|-------|--|---------------|--|-------|--|--------|--|-------|--|---------------------|--|--------|--|--------|--|---------|--|-------|--|-------|--|--------|--|--------|--|-------|--|--------|--|--------|--|------|--|------|--|------|--|-----|--|------|--|-----|--|------|--|------|--|-------|--|
| | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | 人数(名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (A) | [0] | | [17] | | [0] | | [1] | | [0] | | [3] | | [11] | | [3] | | [2] | | [11] | | [8] | | [11] | | [2] | | [8] | | [0] | | [1] | | [15] | | [11] | | [0] | | [6] | | [12] | | [131] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修了者数 | 0 | | 35 | | 0 | | 6 | | 8 | | 38 | | 1 | | 10 | | 6 | | 34 | | 6 | | 41 | | 6 | | 40 | | 9 | | 12 | | 0 | | 7 | | 5 | | 51 | | 8 | | 37 | | 0 | | 17 | | [63] | | 507 | | | | | | | | | | | | | | | |
| (B) | [6] | | [0] | | [0] | | [3] | | [3] | | [7] | | [6] | | [6] | | [7] | | [3] | | [4] | | [1] | | [6] | | [7] | | [1] | | [9] | | [7] | | [4] | | [8] | | [80] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職希望者数 | 19 | | 3 | | 30 | | 10 | | 26 | | 23 | | 32 | | 29 | | 7 | | 7 | | 5 | | 32 | | 51 | | 3 | | 53 | | 14 | | 13 | | 357 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (C) | [(0)] | | [(2)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(3)] | | [(2)] | | [(3)] | | [(2)] | | [(6)] | | [(4)] | | [(6)] | | [(11)] | | [(5)] | | [(3)] | | [(7)] | | [(0)] | | [(3)] | | [(9)] | | [(2)] | | [(7)] | | [(11)] | | [(4)] | | [(25)] | | [(73)] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職者数 | [3] | | [13] | | [0] | | [3] | | [3] | | [4] | | [9] | | [8] | | [25] | | [13] | | [23] | | [4] | | [30] | | [13] | | [28] | | [0] | | [7] | | [3] | | [5] | | [6] | | [30] | | [11] | | [30] | | [1] | | [3] | | [18] | | [51] | | [5] | | [14] | | [4] | | [12] | | [96] | | [338] | |
| うち | (1) | | (0) | | (0) | | (2) | | (1) | | (5) | | (6) | | (3) | | (2) | | (1) | | (1) | | (5) | | (5) | | (1) | | (1) | | (1) | | (2) | | (3) | | (4) | | (40) | | (40) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道外就職者 | 5 | | 1 | | 27 | | 4 | | 14 | | 18 | | 18 | | 15 | | 3 | | 2 | | 3 | | 25 | | 42 | | 3 | | 6 | | 2 | | 7 | | 195 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| うち | (2) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | (1) | | (0) | | (0) | | (2) | | (0) | | (0) | | (1) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | (0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有職者 | 5 | | 0 | | 11 | | 1 | | 6 | | 0 | | 6 | | 2 | | 4 | | 1 | | 12 | | 4 | | 0 | | 12 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (D) | (333) | | - | | (100) | | (100) | | (85.7) | | (100) | | (83) | | (100) | | (100) | | (75.0) | | (100) | | (100) | | (100) | | (100) | | (100) | | (100) | | (100) | | (100) | | (100) | | (91.3) | | (91.3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職率(%) | 68.4 | | 100 | | 100 | | 90 | | 96.2 | | 100 | | 93.8 | | 96.6 | | 100 | | 71.4 | | 100 | | 93.8 | | 98.0 | | 100 | | 96.2 | | 100 | | 92.3 | | 92.3 | | 95.8 | | 95.8 | | 96.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昨年の就職率(%) | 82.4 | | 100 | | 95.5 | | 92.9 | | 83.3 | | 100 | | 93.3 | | 100 | | 100 | | 66.7 | | 100 | | 95.5 | | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | | 95.8 | | 95.8 | | 96.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (E) | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 進学者数 | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| うち | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大学院 | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| うち | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大学 | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| うち | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | [(0)] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職している者 | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | [0] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (F) | (15) | | (1) | | (0) | | (0) | | (5) | | (2) | | (4) | | (4) | | (2) | | (5) | | (2) | | (5) | | (1) | | (0) | | (6) | | (4) | | (2) | | (58) | | (58) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 22 | | 3 | | 7 | | 1 | | 9 | | 18 | | 10 | | 16 | | 2 | | 7 | | 2 | | 21 | | 7 | | 1 | | 26 | | 11 | | 5 | | 168 | | 168 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- ・ A = C + E + F ・ D = C ÷ B × 100 ・ 上段 () は女子で内数/就職率 () は女子の就職率
- ・ 博士の修了者数 [] は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める。)
- ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
- ・ 進学者数 [] は、本学進学者数で内数。
- ・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数。
- ◇平成29年4月1日付で経済学研究科、医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科は、経済学院、医学院、歯学院、獣医学院に改組。
- ◇生命科学学院は、後期課程(生命科学専攻)と、一貫制課程(臨床薬学専攻)がある。
- ◇工学院には、工学研究科修了者を含む。

2. 地域別就職状況

学部

令和元年5月1日現在

| 企業の所在地 | 学部 | | 教育学部 就職者数 | 法学部 就職者数 | 経済学部 就職者数 | 理学部 就職者数 | 医学部 | | 歯学部 就職者数 | 薬学部 薬科学科(4年制) 就職者数 | 薬学部 薬科学科(6年制) 就職者数 | 工学部 就職者数 | 農学部 就職者数 | 獣医学部 就職者数 | 水産学部 就職者数 | 合計 地域別就職者数 |
|--------|---------|----------|--------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------------------|--------------------------|-------------|-------------|--------------|--------------|---------------|
| | 就職者数 | 就職者数 | | | | | 医学科 就職者数 | 保健学科 就職者数 | | | | | | | | |
| 北海道 | 札幌市以外 | 30 (20) | 10 (8) | 44 (20) | 37 (8) | 6 (0) | 60 (52) | 17 (8) | 1 (1) | 3 (1) | 6 (2) | 13 (2) | 10 (3) | 3 (1) | 13 (5) | 232 (121) |
| | 札幌市 | 19 (12) | 5 (0) | 6 (2) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 3 (1) | 3 (1) | 19 (3) | 7 (5) | 4 (2) | 4 (3) | 86 (36) |
| | 岩手県 | 3 (1) | | 1 (0) | | 1 (1) | | | | | | | | | | 6 (3) |
| 東北 | 宮城県 | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | | | | | | | | | | | 1 (1) |
| | 秋田県 | | | | | | | | | | | | | | | 3 (0) |
| | 山形県 | | | | | 1 (0) | | | | | | | | | | 2 (0) |
| | 福島県 | | | | 1 (1) | | | | | | | | | | | 2 (0) |
| 関東 | 茨城県 | 1 (0) | 1 (1) | | | 1 (0) | 1 (1) | | | | | 1 (0) | 2 (1) | | 1 (0) | 7 (3) |
| | 栃木県 | 2 (0) | 1 (0) | | | 1 (0) | | | | | | | | | | 4 (0) |
| | 群馬県 | | | | | | | | | | | | | | | 1 (1) |
| | 埼玉県 | | | | | | | | | | | | | | | 1 (1) |
| | 千葉県 | | | | | | | | | | | | | | | 5 (3) |
| | 東京都 | 42 (15) | 21 (9) | 72 (30) | 83 (18) | 10 (5) | 11 (8) | 1 (0) | 3 (1) | 10 (8) | 56 (9) | 22 (10) | 10 (2) | 1 (0) | 15 (2) | 355 (117) |
| | 神奈川県 | 3 (2) | | 5 (1) | 2 (1) | | 1 (0) | | | | 6 (1) | | | | | 18 (5) |
| | 新潟県 | 1 (0) | | | | | | | | | | | | | | 2 (1) |
| | 富山県 | 1 (1) | | 1 (0) | 1 (0) | | 1 (1) | | | | | | | | | 3 (2) |
| | 石川県 | 1 (0) | | 1 (0) | 4 (1) | | | | | | | | | | | 6 (1) |
| | 福井県 | 1 (0) | | 1 (0) | | | | | | | | | | | | 1 (0) |
| 中部 | 山梨県 | 2 (1) | | | | 1 (1) | | | | | | 1 (0) | | | 2 (0) | 6 (2) |
| | 長野県 | | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| | 岐阜県 | | | | | | 1 (1) | | | | | | | | | 0 (0) |
| | 静岡県 | 2 (0) | 1 (0) | 3 (1) | 7 (1) | | | | | | | 1 (1) | 1 (0) | 4 (4) | 2 (1) | 12 (6) |
| | 愛知県 | | | | | | | | | | | 3 (1) | 2 (2) | 4 (1) | 2 (1) | 25 (8) |
| | 三重県 | | | | | | | | | | | 1 (0) | 1 (1) | | | 2 (1) |
| | 滋賀県 | 1 (1) | | | | | | | | | | | | | | 2 (1) |
| | 京都府 | 1 (1) | | | | | | | | | | | | | | 2 (1) |
| | 大阪府 | 3 (2) | | 3 (1) | 7 (1) | 2 (0) | | | | | | 3 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 2 (1) | 23 (5) |
| | 兵庫県 | 2 (1) | | | | 1 (0) | | | | | | 2 (2) | 1 (0) | | | 8 (4) |
| | 奈良県 | 1 (1) | | | | | | | | | | | | | | 2 (1) |
| | 和歌山県 | | | | | | | | | | | | | | | 2 (1) |
| | 鳥取県 | | | | | 1 (0) | | | | | | | | | | 1 (0) |
| | 島根県 | | | | | | | | | | | | | | | 1 (0) |
| | 広島県 | 2 (2) | 1 (1) | 1 (0) | | | | | | | | | | | | 1 (0) |
| | 岡山県 | 2 (0) | | | | | | | | | | | | | | 4 (4) |
| | 広島県 | 2 (0) | | | | | | | | | | 1 (0) | | | | 4 (0) |
| | 山口県 | | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| | 徳島県 | 1 (1) | | 1 (0) | | | | | | | | | | | | 2 (2) |
| | 香川県 | | | | | | | | | | | | | | | 2 (1) |
| | 愛媛県 | | | | | | | | | | | | | | | 1 (0) |
| | 高知県 | 1 (1) | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| | 福岡県 | 1 (1) | | | | | | | | | | | | | | 5 (3) |
| | 佐賀県 | | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| | 長崎県 | | | | | | | | | | | | | | | 1 (0) |
| | 熊本県 | 1 (0) | | | | | | | | | | | | | | 1 (1) |
| | 大分県 | | | | | | | | | | | | | | | 1 (0) |
| | 宮崎県 | | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| | 鹿児島県 | | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| 沖縄県 | 沖縄県 | | | | | | | | | | | | | | | 0 (0) |
| 海外 | 就職先詳細不明 | | | | | 1 (0) | 1 (0) | | | | | | | | | 3 (0) |
| 合計 | | 120 (62) | 39 (18) | 145 (56) | 160 (34) | 29 (8) | 102 (79) | 0 (0) | 3 (1) | 26 (14) | 109 (19) | 51 (23) | 31 (11) | 45 (14) | 860 (339) | |

※ () は女子で内数

専門職大学院

| 研究科等 企業の所在地 | 法科大学院 (法学研究科) | | 会計専門職大学院 (経済学研究科*) | | 公共政策大学院 (公共政策学教習部) | | 合計 |
|----------------|------------------|------|-----------------------|------|-----------------------|---------|------|
| | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 地域別就職者数 | |
| 北海道 | 1 | (1) | 3 | (0) | 8 | 12 | (5) |
| 札幌市以外 | 1 | (0) | | | 2 | 3 | (1) |
| 青森県 | | | | | | 0 | (0) |
| 岩手県 | | | | | | 0 | (0) |
| 宮城県 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 秋田県 | | | | | | 0 | (0) |
| 山形県 | | | | | | 0 | (0) |
| 福島県 | | | | | | 0 | (0) |
| 茨城県 | | | | | | 0 | (0) |
| 栃木県 | | | | | | 0 | (0) |
| 群馬県 | | | | | | 0 | (0) |
| 埼玉県 | | | | | | 0 | (0) |
| 千葉県 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 東京都 | | | 4 | (0) | 12 | 16 | (5) |
| 神奈川県 | | | | | | 0 | (0) |
| 新潟県 | | | | | | 0 | (0) |
| 富山県 | | | | | | 0 | (0) |
| 石川県 | | | | | | 0 | (0) |
| 福井県 | | | | | | 0 | (0) |
| 山梨県 | | | | | | 0 | (0) |
| 長野県 | | | | | | 0 | (0) |
| 岐阜県 | | | | | | 0 | (0) |
| 静岡県 | | | | | | 0 | (0) |
| 愛知県 | | | | | | 0 | (0) |
| 三重県 | | | | | | 0 | (0) |
| 滋賀県 | | | | | | 0 | (0) |
| 京都府 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 大阪府 | | | 1 | (0) | 1 | 2 | (1) |
| 兵庫県 | | | | | | 0 | (0) |
| 奈良県 | | | | | | 0 | (0) |
| 和歌山県 | | | | | | 0 | (0) |
| 鳥取県 | | | | | | 0 | (0) |
| 島根県 | | | | | | 0 | (0) |
| 岡山県 | | | | | | 0 | (0) |
| 広島県 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 山口県 | | | | | | 0 | (0) |
| 徳島県 | | | | | | 0 | (0) |
| 香川県 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 愛媛県 | | | | | | 0 | (0) |
| 高知県 | | | | | | 0 | (0) |
| 福岡県 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 佐賀県 | | | | | | 0 | (0) |
| 長崎県 | | | | | | 0 | (0) |
| 熊本県 | | | | | | 0 | (0) |
| 大分県 | | | | | | 0 | (0) |
| 宮崎県 | | | | | | 0 | (0) |
| 鹿児島県 | | | | | | 0 | (0) |
| 沖縄県 | | | 1 | (0) | 1 | 2 | (0) |
| 海外 | | | | | | 0 | (0) |
| 就職先詳細不明 | | | | | 1 | 1 | (0) |
| 合計 | 2 | (1) | 9 | (0) | 30 | 41 | (12) |

※()は女子で内数

◇平成29年4月1日付で経済学研究科は経済学院に改組。

博士課程

| 企業の所在地 | 研究科・学院 | | 文学研究科 | 法学研究科 | 経済学研究科 | 医学研究科* | 医学研究科* | 歯学研究科* | 歯学研究科* | 情報科学研究科 | 水産科学研究科 | 環境科学研究科 | 理学院 | 農学院 | 生命科学院* | 教育学院 | 国際大学院* | 保健科学研究科 | 工学院* | 総合化学院 | 合計 | |
|---------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|-------|--------|---------|--------|--------|----------|------|
| | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 | 就職者数 |
| 北海道 | 6 (0) | 2 (0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 札幌市以外 | 2 (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東北 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 青森県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岩手県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 宮城県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 秋田県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山形県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福島県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 茨城県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 栃木県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 群馬県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 埼玉県 | 1 (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 千葉県 | 1 (0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京都 | 1 (0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 神奈川県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新潟県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 富山県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 石川県 | 1 (0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福井県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山梨県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長野県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岐阜県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 静岡県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 愛知県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 三重県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 滋賀県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都府 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大阪府 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 兵庫県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和歌山県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鳥取県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 島根県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岡山県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 広島県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山口県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 徳島県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 香川県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 愛媛県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高知県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福岡県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 佐賀県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長崎県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 熊本県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大分県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 宮崎県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鹿児島県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 沖縄県 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 海外 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職先詳細不明 | 2 (0) | 1 (0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 13 (2) | 3 (0) | 3 (1) | 3 (1) | 3 (1) | 12 (4) | 14 (7) | 1 (1) | 6 (3) | 2 (1) | 7 (3) | 25 (6) | 23 (6) | 30 (5) | 28 (7) | 7 (3) | 5 (3) | 5 (1) | 30 (6) | 50 (7) | 338 (73) | |

※ () は女子で内数
 ◇平成29年4月1日付で経済学研究科、医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科は、経済学院、獣医学院、獣医学院に改組。
 ◇生命科学院は、後期課程(生命科学専攻)と、一貫制課程(臨床薬学専攻)がある。
 ◇工学院には、工学研究科修了者を含む。
 (学務部キャリア支援課)

編集メモ

●6月7日から9日まで開催された第61回北大祭は、天候にも恵まれ、多くの方々に来場いただきました。多くのメディアに北大祭の様子が取り上げられていたこともあってか、本学の在学生だけでなく、ご家族連れや中学・高校生などの生徒さんが多くお越しになり、キャンパス内は賑わいを見せていました。

●夏から秋にかけて、本学では「緑のビアガーデン」「緑のジンギスカン」「オープンキャンパス」「ホームカミングデー」とイベントが続々と行われ、多くの方が本学にお越しになられます。緑の木々に囲まれた自然豊かな本学のキャンパスとともに、「北海道大学」の今を感じていただけると嬉しく思います。



2018.6.2 北海道新幹線 新函館北斗（北斗市）

北の鉄道風景 75 E5系とH5系

開業4年目を迎えた北海道新幹線。終点の新函館北斗駅を出発する上り列車と、同駅に到着する下り列車は1日あたり合計26本である。それらのうち、JR北海道が保有する新幹線車両「H5系」が充当されるのは4本のみであって、残りの22本は、JR東日本が保有する「E5系」で運行されている。このような状況であるから、H5系が使用される列車を撮影するのは、なかなか難しいものがある。写真は夜更けの新函館北斗駅でE5系（左側）とH5系（右側）が並ぶ

光景である。新函館北斗駅の西方の公道上から、1日あたり2回だけ、この写真のような光景を撮ることができる。しかし、札幌への延伸開業に向けて、この写真の撮影地点を含む一帯で高架橋の工事が近々始まる模様であって、近年中には、このような光景も見られなくなりそうだ。

情報科学研究院 准教授 山本 学